郷土教育推進研究報告書

平成28年度

「郷土日野」指導事例

第12集

日野市立教育センター
郷土教育推進研究委員会

目　次

第12集の発行にあたって　　日野市立教育センター　所長　松澤　茂久 …… 1

Ⅰ　研究の概要

1．研究主題 …… 2
2．研究主題設定の理由 …… 2
3．研究の目的 …… 2
4．重点課題 …… 3
5．研究構想図 …… 4
6．研究の進め方 …… 5
　(1) 研究組織　　(2) 研究経過 …… 5

Ⅱ　研究の内容

1．郷土教材を活用した実践事例
　(1) 日野の図書館の発展につくした有山崧（第４学年　社会科） …… 6
　(2) 郷土日野の発展に尽くした『林　丈太郎』を通して
　　ぼくたちわたしたちのまち日野に親しみを感じる（幼稚園　年長児） …… 18
　(3) 日野市の用水「向島用水」に関心をもつ（幼稚園　年長児） …… 30
　(4) 広がる情報ネットワーク
　　情報ネットワークでつながる図書館（第５学年　社会科） …… 34
　(5) 日野市の農業調べ（第３学年　社会科） …… 38
　(6) 浅川ガイドブックをつくろう（第３学年　生きぬく科） …… 42
　(7) 新選組のふるさと日野
　　～土方歳三の生きざまに迫る～（第６学年　社会科） …… 46
　(8) 水のきれいな町
　　―玉川上水の学習を生かして―（第４学年　社会科） …… 50
　(9) 日野用水について（第５学年　総合的な学習の時間） …… 53
　(10) 郷土の発展に尽くした人
　　～多摩動物公園の初代園長　林　寿郎～（第４学年　社会科） …… 57
2．関連機関との連携
　(1) 郷土資料館における農具を使った学習支援（日野市郷土資料館） …… 61
　(2) ブックトークで郷土資料を紹介する（日野市立図書館） …… 63
　(3) 新選組と日野（新選組のふるさと歴史館） …… 65
3．夏期フィールドワーク「高幡、新井、石田、万願寺」 …… 67

Ⅲ　研究のまとめ　～成果と課題～

1．成果 …… 73
2．課題 …… 74
◎　郷土教育推進研究協力者・委員会委員名簿 …… 75

第12集の発行にあたって

日野市立教育センター
所 長　松　澤　茂　久

昨年２月、日野市は大坪市長が「学びと育ちの日野ビジョン（日野市総合教育大綱）」を発表し、「地域から世界へ羽ばたく日野人を育む」ために６つの項目を掲げました。その３番目に「郷土（ふるさと）を愛する日野人として成長し、地域を創り上げるつながりをつくる」ことが謳われ、「自然環境資源、歴史や郷土文化資源、地域団体等の社会資源を有効活用し、郷土愛を育みます」「郷土愛をもった子どもたちが成長し、新たな地域を創り上げていく、日野人としての成長を支えます」と記されています。

21世紀も16年が過ぎ、ＩＴ社会がますます進行し、私たちは刻々更新される新たな情報にややもすると振り回されがちですが、こういう時ほど自分たちの拠って立つ基盤である地域社会（ふるさと）を認識し、そこを土台として思考を拡げることが大切になります。郷土教育はそういう意味で、過去を訪ねて未来を探る、古くて新しい分野なのです。

さて、「郷土日野」指導事例第12集が発行の運びとなりました。教育センターの郷土教育推進研究委員会（仲田小学校 校長 池田泰章委員長）が、平成28年度の研究成果を取りまとめ編集したものです。この研究は、日野の歴史、自然、文化、産業、人物などを教材化することにより、ふるさと日野に誇りと愛着をもった子どもを育てようとするもので、10年以上続き、日野教育の大きな特色となっています。28年度の研究も、幼稚園、小・中学校、図書館、郷土資料館、新選組のふるさと歴史館、地域の方々などの参加と協力を得て、日野の地域の力を結集して行いました。

今年度は、郷土の発展につくした人物を取り上げた授業研究を柱として活動を行い、日野の図書館の名を全国に高めた有山崧氏、平山陸稲を開発した林丈太郎氏などを通じて、改めて先人の業績を子供たちに実感させることができました。

フィールドワークは万願寺・高幡不動地区を対象とし、土方歳三資料館や安養寺、向島用水親水公園などを訪ねて歴史ある地域の重みを肌で感じ取りました。再開発など時代の流れで地域は変貌していきますが、日野市は郷土教育教材の宝庫です。様々な機会を生かして、子供から大人まで市民の郷土への関心が深まってくれれば幸いです。

今年度、大変忙しい中を、郷土教育推進研究委員会に参加して授業研究にご努力いただいた現場の先生方はじめ各委員の皆様、そして推進研究にあたってご協力をいただいた各方面の関係者の皆様に深く感謝申し上げます。

Ⅰ　研究の概要

1　研究主題

郷土意識を育む指導の在り方
～郷土の歴史、自然、文化、産業、人を用いた授業づくり～

2　研究主題設定の理由

本研究は、日野市の小・中学校、博物館、図書館、教育委員会、教育センターが連携して推進する12年目の継続研究である。教育基本法、学校教育法、学習指導要領が改正され、教育目標に「伝統と文化を尊重し、それらを育んできたわが国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと」の文言が加えられた。本市の平成26年３月の第２次学校教育基本構想では、「地域と共につくる基本と先進の教育」を揚げ、教育のまち日野を目指して、「21世紀を切りひらく力」「次代をつくる特色ある学校づくり」「つながりによる教育」の３つの基本方針に基づき12項目と36の取り組みを設定し取り組んでいる。

さらに、基本方針３では『人が豊かに生きるために体験を充実させ、学校、家庭、地域・社会が一体となった「つながりによる教育」を推進するため、グローバルな視野をもったつながりによる教育と自然や歴史、文化、芸術、スポーツ、ものづくりに触れる豊かな体験を通して郷土教育を推進することに触れている』ことを受け止め、今年度は特に授業実践に重点を置くこととした。

この第２次学校教育基本構想においても「郷土に誇りと愛着をもったひのっ子」「将来の日野を背負って立つ日野人」の育成が日野市の教育課題であり、郷土教育推進研究委員会では郷土教材の発掘、教材化に努め、指導計画を作成し、全市の幼稚園、小・中学校に普及啓発するため、「郷土日野」指導事例集を作成し、市内全幼稚園、小・中学校、市立博物館、図書館等、関係機関へ配布している。

この趣旨を生かすため、今年度の研究主題を「郷土を育む指導の在り方～郷土の歴史、自然、文化、産業、人を用いた授業づくり～」と設定し、重点課題３点に絞って推進研究と授業実践に当たることにした。

3　研究の目的

「ふるさと日野に誇りと愛着をもったひのっ子」「将来の日野を背負って立つ日野人」を育成するために、学校における郷土教育の在り方を研究する。この研究に基づき、各学校は郷土を活用した様々な教育活動を実践し、次の児童・生徒を育成することが本研究の重要な目的である。

- ○　郷土の歴史、自然、文化、産業、人を理解し、先人への感謝の心をもった　ひのっ子
- ○　郷土の特色やよさに気付き、継承・発展させたいと願い、行動する　ひのっ子
- ○　郷土の一員としての自覚と誇りをもち、仲間や郷土の人々と協働できる　ひのっ子
- ○　郷土の未来の姿を思い描き、よりよい郷土の実現について思考できる　ひのっ子

４　重点課題

今年度の重点課題を郷土教育の普及・啓発とし、具体的な課題３点を設定した。また、本市の重点課題を受け、これまでに引き続き幼稚園での郷土教育の推進と幼稚園と小学校の連携に取り組んだ。

①　郷土教育を推進する指導者（教員）の育成
②　幼稚園・図書館・博物館等、関係機関と連携した授業づくり
③　郷土教材の開発と郷土教材・実践事例の電子データ化

（１）郷土教育を推進する指導者の育成

①　夏期郷土教育研修会（市教委共催）を実施し、各小中学校の郷土教育推進リーダーを育成する。また、年度末に１年間の研究・実践の成果を発表する。夏期研修会は以下の内容で実施した。

・午前　　高幡、万願寺地区・石田地区フィールドワーク

・午後　　潤徳小学校で実践事例の発表・講義・演習

②　郷土教育推進研究委員が各学校・地域での郷土教育のリーダーとなる。

・毎月の委員会、実践報告・協議を重ね、研究を深める。

・学識経験者、博物館学芸員、図書館司書から情報・資料の提供と指導・助言を受け、郷土教育の教材開発や実践に生かす。各委員が授業力の向上に努める。

③　幼稚園と小学校の連携を深め、幼稚園教諭の郷土教育推進リーダーを育成する。

（２）幼稚園・博物館・図書館の連携

博物館・図書館が学校と関わる機能・役割として次の３点が考えられる。

①　郷土に関する資料や情報が蓄積されている。

②　蓄積された資料や情報をもとに小・中学校の授業を支援する。協働授業が実施できる。

③　本市の博物館・図書館は、学校・市民に開かれた機関で、専門的見地から指導・助言・協働ができる。児童・生徒が興味・関心を高め、意欲的に学ぶことができる。

博物館・図書館と連携・協力することにより、効率的でより専門性を発揮した、児童・生徒をひきつける授業が実施できる。今後ますます博物館・図書館等関係機関と、よりよい連携協力関係を築き協働することが大切となってくる。

一昨年より幼稚園でも郷土教育に取り組むことになった。今年度も幼・小連携しながら、どのような実践ができるか、実践を通し検証した。

（３）郷土教材の電子データ化　　教育センターホームページの充実・整備（ＰＤＦ化）

①　郷土日野指導事例　第１～第12集　全ページが閲覧できる。（図版がカラーで見ることができる。）

②　郷土日野画像図版資料集　第６集分が完成　写真や図表がすぐ授業に使える。

③　年間２回の発行の「教育センターだより」に、本委員会で発掘・教材化した事例や授業で実践を掲載する。

5　28年度 研究の概要（研究構想図）

「役に立つ」「やりがいのある」郷土教育（案）

教育目標

ひらこう　世界へ
のびよう　ともに
つくろう　夢を
こえよう　自分を

日野市学校教育基本構想（平成26年３月）

・地域と共につくる基本と先進の教育をめざし、
　①　21世紀を切り開く力
　②　次世代をつくる特色ある学校づくり
　③　つながりによる教育　の３つの基本方針に基づき
・基本方針３で『人が豊かに生きるために体験を充実させ、学校、家庭、地域・社会が一体となった「つながりによる」教育の推進』

郷土教育推進事業

「ふるさと日野」に誇りと愛着をもつ「ひのっ子」の育成を願い、幼稚園、小・中学校における郷土教育の在り方を調査・研究すると共に日々の授業に生かしていく。

○　各教科等における郷土日野の教材開発及び学習指導法を研究する。
○　日野市の学校副読本・周年記念誌、日野市史等、諸資料の活用を推進する。
○　日野市郷土資料館、新選組のふるさと歴史館、市立図書館等の活用について研究する。

郷土教育が育む児童・生徒像

郷土の歴史・自然・文化・産業・人を理解する子供。（理解）
郷土の特色やよさを発信できる子供。（能力）
郷土の一員として自覚と誇りを持ち、人々と協力する子供。（態度）
郷土の発展を思い描く子供。（思考）

学校教育における郷土教材の定着化

郷土の歴史・自然・文化・産業・人を教材化する意図を明確にする。
郷土教材を収集・開発・教材化し、授業実践を通して普及・啓発・定着化を図る。
郷土教材を活用した指導計画例を作成・提示する。

研究主題

郷土意識を育む指導の在り方 ―郷土の歴史･自然･文化･産業・人を用いた授業づくり―

平成28年度の具体的な研究内容

「日野」の郷土教材の収集・開発・教材化を行う。博物館・図書館等、関係機関と連携の在り方を探り、日常の授業実践に生かす。
・幼小連携　・防災教育等

郷土教材を活用した指導計画の作成や授業展開の工夫、副読本や郷土関連資料の活用の工夫、郷土資料館、新選組のふるさと歴史館、図書館等を活用した授業の工夫など、学習指導法の研究を行う。

研究の成果を集約し今後研究の資料として活かす。また、電子データ化して各学校に提供し、普及に努める。研修会で実践事例を発表し、普及・啓発に努める。

6　研究の進め方

（１）研究の組織

幼稚園・小学校教員、郷土資料館学芸員、中央図書館司書、新選組のふるさと歴史館学芸員、学識経験者を各委員とし、教育委員会・教育センターを事務局として、21名からなる委員会組織を構成した。ほぼ月１回の郷土教育推進委員会では、教育センターを会場に開発教材・事例の提案・協議、研究発表会の検討・準備、情報交換・連絡調整、郷土資料館特別展の見学を行った。

（２）研究の経過

日時・場所	委員会活動の名称	研究活動の内容
５月９日（月） 仲田小学校	役員会①	・委員会の構成・組織・内容・年間計画 日程等の打ち合わせ
５月31日（火） 教育センター	郷土教育推進研究委員会①	・委員会の構成　・組織づくり ・本年度の研究内容の検討 ・研究活動日程の検討
６月16日（木） 教育センター	郷土教育推進研究委員会②	・郷土教材を活用した学習指導の検討・協議 ・研究発表の内容、発表者の検討 「日野に尽くした人」
７月14日（木） 教育センター	郷土教育推進研究委員会③	・指導案検討会 ・フィールドワークについて
７月21日（木） 土方歳三を訪ねて	フィールドワーク実地 踏査	・フィールドワークコースの確定 ・内容の決定
７月25日（月） 土方歳三を訪ねて	郷土教育推進研究委員会④ 「一日研修会」 午前フィールドワーク 午後講義・演習	・フィールドワーク ・室内研修（事例発表、講義、演習）
８月26日（金） 教育センター	郷土教育推進研究委員会⑤	・フィールドワーク反省、まとめ ・指導案検討会
10月13日（木）	郷土教育推進研究委員会⑥	・研究授業（上学年） 日野第六小学校　４年　島谷学級
11月１日（火）	郷土教育推進研究委員会⑦	・研究授業（下学年） 日野第七幼稚園　年長児　森　学級
11月18日（金） 仲田小学校	役員会②	・研究発表会までの日程、内容、方法の検討・協議
12月28日（水） 教育センター	郷土教育推進研究委員会⑧	・郷土教材を活用した学習指導事例の検討・協議 ・実践事例の整理とまとめ
１月20日（金） 教育センター	郷土教育推進研究委員会⑨	・郷土教育を活用した学習指導事例の検討協議 ・研究発表会の発表原稿検討
２月21日（火） 教育センター	教育センター研究発表会 郷土教育推進研究委員会⑩	・研究発表 ・研究発表会の反省
３月17日（金）		・「郷土日野」実践事例集第12集　業者原稿入稿
３月31日（金）		・「郷土日野」実践事例集第12集　業者納品
４月中		・関係機関へ発送　・電子データ化（HP公開）

（中島　和夫、廣木　智之）

Ⅱ　研究の内容

１．郷土教材を活用した実践事例

（１）日野の図書館の発展につくした有山崧

（第４学年　社会科）

１．教材化の意図

（１）教材について

平成20年３月に新しい小学校学習指導要領が告示され、小学校では平成23年度から全面実施となった。それ以前に、平成19年中央教育審議会から「日本人としての自覚をもって国際社会で主体的に生きるとともに、持続可能な社会の実現を目指すなど、公共的な事柄に自ら参画していく資質や能力を育成する方向で改善を図る」と答申されたことを受け、「よりよい社会の形成に参画する資質や能力の基礎を培うことを重視して改善を図る」と改善の基本方針に明記された。この「よりよい社会の形成に参画する資質や能力の基礎」は小学校社会科の目標でもある公民的資質の基礎に通ずるものである。

子供たちがまず直面する問題や事象は、子供たちが生きている社会（地域）にある。これらのことから、郷土に対する誇りと愛着の意識を育てることは極めて重要である。

そして、子供たちの郷土に対する誇りと愛着を育てるためには、身近な地域資源を教材化することが有効であると考えた。

そこで着眼したのが日野市立図書館である。その日野市立図書館に着目した理由は、２点ある。まず１点目が図書館という建物が子供たちにとって身近という点である。実際にアンケートをとると35名のうち、30名を超える子供が日野の図書館を利用していた。２点目が、「日野が日本一」という大きなインパクトを子供たちに与えられるという点である。これは、郷土に対する誇りにもつながってくる。

これらのことから、子供たちが生まれた時から当たり前のようにあった日野市の図書館がどのように生まれ、全国から見てどのように日野が映っていたのかを学習することは、子供たちにとって切実性を生み、追究したくなる教材になるのではないかと考えた。

（２）日野市立図書館

昭和40（1965）年９月、１台の移動図書館からスタートした日野市立図書館は、公共図書館の中心が地域の図書館にあることを具現化し、日本の図書館のあり方に大きな影響を与えた。また、昭和45（1970）年に建造された中央図書館は、日本の公共図書館における先駆的モデルになるなど、日野市は日本の公共図書館に大きな影響を与えた。この事例は、日野に留まらず、全国の文化の発展に大きく貢献した事例である。

（３）有山崧

そこで、本小単元では、その日野市の図書館の生みの親である有山崧氏について扱いたいと考えた。有山崧氏は、昭和23年より日本図書館協会事務局を務め、昭和38年、『中小都市における公共図書館の運営』（以下、『中小レポート』）を有山崧氏が中心となって発刊した。これは、当時の図書館としては革命的な宣言であり、この『中小レポート』を実践した日野の図書館が全国

から注目された。日野市の図書館はこの有山崧氏の尽力が無ければ存在していないし、少なくとも『日野は日本一』という新聞記事が誕生することはなかった。これまで、閲覧中心だった図書館を貸し出し中心にすべきだとした考えは、当時批判や反論も多くあった。しかし、市民のためにと尽力した有山崧氏の業績は、今日の公共図書館の発展に生かされている。

日野市の土台を築いた有山崧氏、そして日野市立図書館を教材化することで日野市の４年生が日野市を誇りに思う心をも育成したいと考えた。

（４）郷土教育研究主題との関連性

郷土意識を育む指導の在り方　―郷土の歴史・自然・産業・人を用いた授業づくり―

今年度の日野市郷土教育推進事業は「郷土意識を育む指導の在り方 －郷土の歴史・自然・産業・人を用いた授業づくり－」という研究主題を設定している。

今回、本小単元を実践するにあたり、研究主題にある「郷土意識を育む」を、『小学校学習指導要領解説者会編』第３学年及び第４学年の内容にある「地域社会に対する誇りと愛情を育てる」と捉えた。また、「郷土の人を用いた授業づくり」を、日本の公共図書館の発展に尽くした有山崧を題材とした授業づくりと捉えて実践することとした。

いつでもだれでも本を借りられ、気軽に利用する場所となっている現在の公共図書館の形を40年前に最初に実践されたところが日野市であり、その中心人物である有山崧氏の業績を調べていくことで、地域に対する誇りと愛情という郷土意識を育む指導ができると考えた。

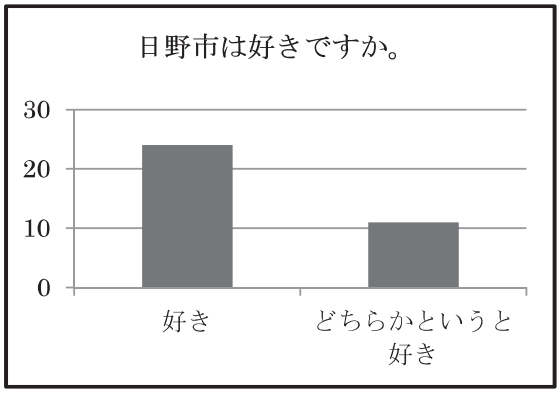
（５）日野市学校教育基本構想との関連性

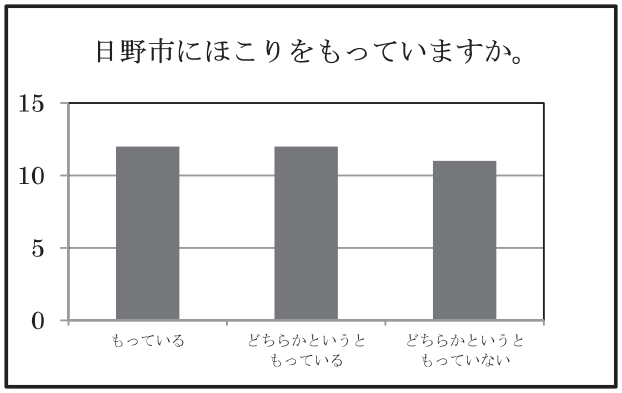
平成26年３月に日野市教育委員会から発表された『第２次日野市学校教育基本構想　教育のまち 日野』では、３つの基本方針に基づき、12の項目と36の取組みを推進していくとしている。基本方針３の中の「グローバルな視野をもったつながりによる教育」という項目の中に「地域・社会の一員として、郷土及び日本の伝統・文化を学び、守っていくとともに、ふるさと日野を愛し、社会とかかわるひのっ子を育てます。」とある。

本小単元を通して、郷土の日野が図書館という視点からどのように変化していったのかを調べ、そして、全国のモデルにまでなった図書館を創り上げた有山崧氏という先人の業績を通して、ふるさと日野を愛し誇りに思う児童を育てたいと考える。

２．児童の実態

以下は、平成28年９月６日に行った調査である。





【考察】

「日野市は好きですか」という質問に関しては、全員が「好き」「どちらかというと好き」と回答した。自分たちの住んでいる日野市に愛着をもっていることが分かる。一方で、「日野市にほこりをもっていますか（自慢に思っているかどうか)」という質問では、「もっている」が12名。「どちらかというともっている」が12名。「どちらかというともっていない」が11名であった。日野市に対して愛着はあるが、日野市のことを誇りと思えるところまでは達していないことが分かる。

３．指導計画

（１）学習指導要領との関連

本小単元は学習指導要領社会第３学年及び第４学年の目標（２）及び内容（５）ウに基づいて設定した。

目標 （２）地域の地理的環境、人々の生活の変化や地域の発展に尽くした先人の働きについて理解できるようにし、地域社会に対する誇りと愛情を育てるようにする。

内容 （５）地域の人々の生活について、次のことを見学、調査したり年表にまとめたりして調べ、人々と生活の変化や人々の願い、地域の人々の生活の向上に尽くした先人の働きや苦心を考えるようにする。 ウ　地域の発展に尽くした先人の具体的事例

本小単元は、地域の人々の生活の向上に尽くした先人の働きや苦心を考える手掛かりとして、地域の発展に尽くした先人の具体的事例を調べ、地域の人々の生活の向上に尽くした先人の働きや苦心を考えることができるようにすることをねらいとしている。また、内容（５）のウの「具体的事例」については、開発、教育、文化、産業などの地域の発展に尽くした先人の中から選択して取り上げるものとする。とある。

そこで、本小単元の目標を、「有山崧の人となりや日野市とのつながりに関心をもち、有山崧の図書館に対する業績について調べたり、その想いや苦心について話し合ったりして、日野や図書館の発展に尽くした有山崧の働きについて考えることができる。」と設定した。

（２）学習計画

時	●ねらい	○主な学習活動 ・児童の反応、内容	□支援　◆資料 ☆評価（評価方法）
つかむ①	●現在の日野にある図書館について調べ、私たちと図書館のつながりを知る。	○私たちと図書館とのつながりを想起し、図書館とは私たちにとってどのような場所かを考える。 ・誰でも自由に入れる場所 ・本を借りられる場所 ○現在の日野中央図書館の様子を調べる。 ・20万冊以上の本がある。 ・日野の図書館の中で一番冊数が多いのが中央図書館。 ・毎年多くの人が中央図書館を利用している。 ○学習の振り返りを書く。	□図書館利用のアンケート結果を提示する。 ◆日野中央図書館の外観（写真） ◆中央図書館の利用者数、在庫冊数、貸し出し冊数（グラフ） ◆図書館の場所にシールを貼った市内の拡大地図（地図） ☆日野市の図書館と私たちのつながりを理解することができたか。（発言・ノート）
②	●日野の図書館の歩みを年表から調べ歴史を理解し、日野に図書館ができる前はどのように市民が生活していたのかを予想し、有山崧について知る。	○日野の図書館の歴史を年表から調べる。 ・平山、多摩平など次々と図書館が設置されている。 ・絵本読み聞かせ入門講座など色々な取り組みを行っている。 ○最初に図書館ができたのが50年前であることに着目し、図書館がない時代の市民の生活を予想する。 ・本を買うしかなかったのではないか。 ・我慢する人が多かったのではないか。 ・本を読む人が少なかったのではないか。 ○日本の図書館や日野市を変えようと立ち上がった人物を紹介する。 ○学習の振り返りを書く。 ・今はいつでも本を借りられるけど、図書館がなかったら借りに行けない。 ・借りられないと本を買うしかなくなるから生活も大変だったんじゃないかな。	◆日野図書館のあゆみ（年表） □前時で学習した「図書館はどんな場所か」「どのようなつながりがあるか」を基に図書館がない時代の生活を考える。 ◆有山崧の肖像画（写真） ☆今の図書館とのつながりを基に、図書館が無いとどのような困ることが起きるかを考えることができたか。（発言・ノート）

③ ④	●日野市立図書館が全国一になった背景を予想し、学習問題を立てる。 ●学習問題を解決していくための学習計画をたてる。	○これまでの学習を整理する。 ○図書館の貸し出し冊数が伸びていることをグラフから読み取る。 ○新聞記事から、日野市の図書館の貸し出しが日本一になったことを知り、その背景を予想する。 ・多くの人が図書館を利用するようになったからではないか。 ・おもしろい本をたくさん図書館に入れたからではないか。 ・サービスを充実させたのではないか。 ○「どのように」を細分化し、解決するために調べて確かめることを予想し、それをもとに話し合い、内容を検討する。	□模造紙を基に既習事項を整理する。 ＜図書館の貸し出し冊数の推移＞ □昭和40年頃から貸し出し冊数が急激に伸びていることをおさえる。 ＜日野市の図書館が貸し出し冊数全国１位になった際の新聞記事＞ ☆有山崧の事業について関心をもち、考えようとしている。（ノート）
	学習問題　有山崧はどのようにして日本一の図書館をつくったのだろうか。		
	小問題①　有山崧はどのような人物だったのだろうか。 小問題②　有山崧はどのような図書館をつくろうとしたのだろうか。 小問題③　有山崧はどのように図書館をつくり、どのような工夫をしたのだろうか。		
		○小問題の予想をノートに書く。 ○小問題①の予想 ・やりたいことを達成するまで決してあきらめない人だったのではないか。 ○小問題②の予想 ・どんな人でも利用できる図書館をつくろうとしたのではないか。 ○小問題③の予想 ・また来たいと思うようなサービスをした。 ・読みたい本がたくさんある図書館にしたのではないか。 ○学習の振り返りを書く。 ・どうやって日野の図書館は日本一になったのかな。 ・図書館をつくろうとした有山崧さんはどんな人だったのかな。	☆日野の図書館について学習問題や学習計画をもとに考え、表現している。（発言・ノート）

調べる⑤	有山崧はどのような人物だったのだろうか。		
	●有山崧の職業や人柄について資料を基に調べ、有山崧の人物像を理解する。	○有山崧の人生年表を調べ、どのような人物だったかを考える。 ・海外に行ってまで勉強するなんてとても熱心な人だ。 ・日野市長になり日野市のために熱心に仕事をした人だった。 ○人柄を象徴しているエピソードを紹介する。 ○有山崧の人柄を班で話し合いまとめる。 ○学習の振り返りを書く。	□資料のどの部分からそのように考えたか根拠を明確にして発表する。 □年表から分かることがある程度出たところで、エピソードが書かれている資料を提示する。 ☆有山崧の人物像について資料を基に類推し、自分の有山崧像をまとめることができたか。 （発言・ノート）
	有山崧はどのような図書館をつくろうとしたのだろうか。		
⑥	●他地域の図書館の様子を知り、問題点を考えるとともに、有山崧がどのような図書館を目指したのかを理解する。	○当時の図書館を利用した人の声で印象に残ったところに線を引き、理由を発表する。 ・音すらたてられない緊張感がある。 ・読みたい本を探すだけですごく時間がかかって利用しにくい。 ○有山崧はこのような図書館を見て、どのような図書館をつくろうとしたのか考える。 ○学習の振り返りを書く。	□キーワードを３点に絞り、焦点化する。 ☆他の地域の図書館の様子から有山崧がどのような図書館をつくろうとしたのか、自分の考えをまとめることができる。（発言・ノート）
⑦本時	日野に図書館ができ、市民の生活はどのように変わったのだろうか。		
	●「ひまわり号」の良さや問題点を考え、有山崧がどのように日野市を変えたかを知り、日野市民の生活がどのように変化したかを考える。	○ひまわり号（移動図書館）の写真を見て、良さを考える。 ○移動図書館を実際に利用した日野市民の声を調べる。 ○調べて分かったことを基に日野市民の生活はどのように変わったのかを考え、話し合う。	『“魔法のツエ”あります』 （昭和44年11月24日） ＜新聞記事＞ 『戦後日本図書館のあゆみ』　＜映像資料＞ ☆移動図書館の特徴を理解しながら、日野市民の生活がより良くなったことを理解することができたか。 （発言・ノート）

⑧ ⑨	日野市立図書館はどのような工夫を行っていたのだろうか。		
	●日野市立図書館が行った工夫について調べる活動を通して、それらが現在の図書館に受け継がれていることを知る。	○日野市立図書館の工夫について調べる。 調べる項目 一声運動（働く側の気持ち）・建物 本の種類・数・リクエスト・サービス 調べる視点 ①なぜ始めようと思ったのか ②具体的にはどのような内容か ③その工夫によって当時の人々はどのように変わったか（喜んだか） ○違うものを調べた人でグループを作り、調べたこと・考えたことを発表し合う。	□課題をジグソー学習で分担して調べる。 □何を調べればよいかが分からなくならないよう、調べる視点を与える。 ☆日野市立図書館の工夫について写真や映像、文章などの資料を活用し、友達と情報を集めて読み取り、まとめることができる。 （発言・ノート）
まとめる ⑩	有山崧の考え方は今の図書館にどのように生かされているのだろうか。		
	●これまでの有山崧の働きが果たしてきた役割に対して自分の考えを手紙にまとめる。	○学習問題に対しての自分の考えを、これまでの学習をふりかえりながらまとめる。 ・有山崧さんは、日野市民の願いをかなえるための図書館をつくるなんてすごいと思う。日野の図書館が、まずはバスから始まったなんて初めて知りました。 ・全国のモデルになった日野の図書館を誇りに思う。有山崧さんに感謝したい。 ・市民のことを思った図書館づくりは今も引き継がれている。	□これまでの学習や流れを模造紙にまとめ、視覚的に分かりやすくする。 ☆有山崧の業績と現在とのつながりに関心をもち、図書館の価値について考えることができる。（発言・ノート）

４．本時の指導

（１）本時のねらい

「ひまわり号（移動図書館）」の業績や良さや、実際の日野市民の声を調べ、日野市民の生活がどのように変化したかを考える。

（２）本時の展開

	○主な学習活動　・予想される児童の反応、内容	□指導上の留意点　☆評価 ＜資料＞
つかむ	○有山崧がつくった図書館を知り、めあてを確認する。 日野に図書館ができ、市民の生活はどのように変わったのだろうか。	
調べる	○めあてに対する予想を行う。 ・本を気軽に読めるようになった。 ・本を好きになる人が増えた。 ○ひまわり号（移動図書館）の業績を調べ、ひまわり号の良さを考える。 ・図書館が移動するから多くの人が利用できる。 ・足が不自由な人でも利用しやすい。 ・身近に図書館があるようになった。 ○移動図書館を実際に利用した日野市民の声を調べる。 ・希望する本をほとんど手に入れることができるようになった。 ・高い本でも楽しむことができるようになった。 ・本を買う必要がなくなった。 ・魔法のツエと呼ぶほど図書館は素敵な場所だった。 ○調べて分かったことを基に日野市民の生活はどのように変わったのかを考え、話し合う。 ・身近に図書館ができるようになり、読みたい本を読みたい時に読めるようになった。 ・前よりも、本を読む機会が増え、かけがえのない財産をつかむことができるようになった。 ・本を買うお金が必要でなくなり、思う存分読書を楽しむことができるようになった。	□初めは、写真の一部分（受付で子供が集まっている部分）を提示し、その後ひまわり号を提示する。 ＜『ひまわり号』（写真）＞ 『“魔法のツエ”あります』 （昭和44年11月24日） ＜新聞記事＞ 『戦後日本図書館のあゆみ』 ＜映像資料＞ □個人で考える時間をとった後、グループで交流する場面を設ける。 □移動図書館の良さと関連付けながら日野市民の生活の変容を考える。
まとめる	○めあてに対してのふりかえりを行う。 ・日野市に図書館ができたことはとても大きく、市民の生活をより豊かなものにしてくれた。 ・日野市民にとって本や図書館は身近なものになり、その結果利用率日本一という結果につながった。	☆移動図書館の特徴を理解しながら、日野市民の生活がより良くなったことを理解することができたか。　（発言・ノート）

（３）本時で扱った資料

『ひまわり号』（導入時提示）

『ひまわり号』（黒板掲示）

〝魔法のツエ〟あります

日野市　山口　生子（主婦　38歳）

寓話の本の話しとを聞かれ、学校への大きな可能性を秘めている子どもたちに、魔法のツエで世界中の童話の本の価値を、タダに書換えてしまいたい…といわれる「西」（19日付）を読み、感無量です。

私たちの住む日野市には、その魔法のツエがあります。おかげで市民はタダで思う存分読書ができ、大人も子ども一人四冊まで二週間借りられます。その期間に読切れない場合は、さらに二週間の継続ができます。市内には三カ所の図書分館と都電を改良した児童専用図書館と移動図書車「ひまわり」号が市内を巡回して便宜をはかってくれます。読みたい本は特別すれば、ほとんど手に入り、高くて個人ではちょっと手が出せない本でも楽に読み、観賞することができるので大助かりです。

わが家の家計簿からは本代の費用が消え、その上、狭い家にツンドク本もふえず、結構すくめです。まして三人の子どもたちは、一生を通じて心の財産と、かけがえのない財産をつむことになるでしょう。

『魔法のツエあります』
（昭和44年11月24日　朝日新聞）

５．協議会での意見

・ひまわり号の写真の提示の仕方が非常に効果的で、子供たちに驚きをもたせるのに十分な資料であった。
・他地域との貸し出し冊数の比較が、効果的であった。
・本時の中だけで、子供たちが驚きの声を上げたのが３回あった。それだけ、子供たちの興味関心は持続されていた。
・「なぜなら」という言い回しを使って子供たちが子供たちの言葉でめあてに対するまとめを発表できていた。めあてを十分に達成していたのではないか。
・これまで、教材化されてこなかった「日野市の図書館」という地域資源を今回教材化することができた。今後、さらに充実させていくと日野市の財産になるのではないか。

・本時で扱った資料を減らし、１つの資料についてより深く掘り下げてみても面白い。
・まとめに「日野に図書館ができたことで人とのつながりがより親密になった」という意見が出て板書したが、やはり、人と本とのつながりに特化させた方がよかったのではないか。
・有山崧さんの願いの部分を本時でも色濃く出していきたい。
・単元のまとめをどのような形で行うか、改善の余地がある。

６．成果と課題

（１）成果

この小単元に入る前に、アンケートで「社会科は好きですか」という問いに対して「好きではない」と答えた児童が１名いた。その児童の毎回のノートの記述（まとめ）を見るとこのような変容が見られた。

【第１時】
「図書館は小学生向けの本があるから子供のうちから本で勉強してほしいという願いがある。」
【第２時】
「50年前に本がないのは当たり前だった日野市に図書館をつくった人はすごいと思います。だけど、本屋さんはどうなるのか気になります。(1)」
【第６時】
「わたしは、昭和25年の図書館を写真で見ました。利用する人が行ったら学生の行列があったそうです。学生に人気だということと図書館が少なかったのが分かりました。有山崧さんが立ち上がってから利用しやすい図書館になりました。」

下線（1）では、学習していく中で自ら新たな課題を見出していることが分かる。また、授業を進めていくにつれて、分量も増え、自分の言葉で意欲的にまとめる姿が見られるようになってきた。

この児童は、本小単元のまとめる段階の手紙に以下のような内容を書いていた。

有山崧さんへ
わたしは日野で生まれました。日野の図書館はかんたんにできて、昔からあるものだと思っていました。（中略）日野に図書館という楽しい所があり、わたしは有山崧さんに感謝しています。日野が日本一になりうれしいです。(2)（以下、省略）

有山崧氏への感謝、日野の日本一を喜んでいる様子（下線（2））が分かる。

同アンケートで「日野市に誇りをあまりもっていない」と答えた児童は、以下のような手紙を書いていた。

ぼくは、とても有山崧さんがすごいと思います。なぜなら、自分の事だけでなく、市民のためにも動くことができるからです。（中略）日本一の図書館をつくってくれてありがとうございます。(3)（以下、省略）

（省略）
私が学習した中で１番驚いたのは、図書館をあまり利用することができない多くの人達のために立ち向かい、日野の図書館を変えたことです。有山崧さんが日野の環境を変えたから、今があるのだと思います。(4) そして、全国の図書館にも大きな影響を与えたのがとても素晴らしいです。私も、これから先、日野を大切にしていきたいです。(5)

日野市に誇りをあまりもっていないと答えていた児童も、有山崧さんの働きや日野市の図書館に強い関心をもったことが下線（3）（4）の記述からも分かる。下線（5）にあるように、日野を大切にする心情、郷土への誇りが高まったことが分かる。

また、「有山崧氏への感謝」「日野はすごい」「日野は日本一」という３つのキーワードのいずれかを手紙に書いた児童は35名中35名だった。

これらのことをふまえ、日野市立図書館を教材として扱った授業を通して、子供たちの様子を基にその良さや効果を以下のようにまとめた。

①本教材は、子供たちにとって身近なものであり切実性や驚きを生みやすかった。
②本教材は、自分と地域のかかわりを意識しながら主体的に取り組みやすかった。
③本教材は、自分の地域に対する誇り・愛情を育みやすかった。

（２）課題

・資料を精選し、いかに見せていくか・どう出会わせるかが重要である。
・単元のまとめをどのような形で行うか検討していく必要がある。
・過去の事象（これまでの図書館）から未来に目を向ける視点（これからの図書館）へどのようにつなげていくか。
・有山崧氏の願いや工夫・苦心といった内容をもっと指導計画の中に入れ、有山崧という人物像をより浮かび上がらせる必要があった。

７．まとめ

今回有山崧氏・日野市立図書館を教材化するにあたり、日野図書館分館長の石嶋日出男様から、有山崧氏関連の書籍を６冊ほど借り、文献研究から入った。有山崧氏が行ってきたことや、どのような図書館を作ろうとしたのかが分かってきた。読めば読むほど、有山崧氏の偉大さが分かり、教材化への想いがさらに強くなっていった。インターネットを活用し、図書館関連の書籍を購入した。『中小レポート』もその一つである。

次に、夏休みを活用し、現在日野市にある図書館を全て見て回った。ひまわり号の停留所を一つ一つ回ってみた。どのような場所が選ばれているのか、どのような人たちが利用しているのか、実際に目で確かめることができた。その際、「当時の人達がひまわり号をどのように思っていたのかが分かる資料がないか」と思い浮かび、資料を探し回った。有山崧氏の次男である至氏が日野にお住まいという事を聞き、お伺いしインタビューを行った。至氏は快くインタビューを受けてくださり、貴重なお話をたくさんしていただいた。そして、背中を押してくださった。至氏からお借りした本の中から『魔法のツエ』という新聞記事の事を知った。

そこで、次に向かったのが日野市政図書室である。40年以上前の新聞記事を探すのに、図書館員の方々も快く協力してくださり、無事見つけることができた。

多くの方々のご協力があり、情報や資料が揃い、そして同じ推進委員の方々のご指導ご助言を受けながら、教材化するまでになった。

地域教材を扱ったことで起きた子供たちの興味関心の高まりは筆者が予想していたものを大き

く上回るものであった。また、第１時における子供たちの反応も筆者の予想をはるかに超えていた。

今回、子供たちの学習の様子を見て、地域資源を教材化し活用することは大きな意義があると改めて感じた。「当たり前だと思っていたこと」や「分かっているつもりだったこと」が、ことごとく覆されるたびに、子供たちはくいつき意欲的に学習を進めた。

今後も、子供たちの身近にある地域資源を価値付け、教材化し、今回単元のまとめで子供が実際に書いたように「日野を大切にしたい」「日野ってすごい」といった日野を誇りに思う気持ちを高め、日野を愛するひのっ子を育てていきたいと考える。

参考文献

○有山崧（1963）『中小都市における公共図書館の運営』教育史料出版会.
○有山崧（1970）『有山崧 著作集１』日本図書館協会.
○有山崧（1970）『有山崧 著作集２』日本図書館協会.
○有山崧（1970）『有山崧 著作集３』日本図書館協会.
○関千枝子（1986）『図書館の誕生 ― ドキュメント・日野市立図書館の20年 ―』日本図書館協会.
○前川恒雄（1988）『移動図書館ひまわり号』筑摩書房.
○前川恒雄編（1990）『個人別図書館論選集　有山崧』日本図書館協会.
○東條文規（1999）『図書館の近代：私論・図書館はこうして大きくなった』ポット出版.
○有山崧没後30年記念集会実行委員会（2000）
『有山崧　その思想に学び、これからの図書館を考える』有山崧没後30年記念集会実行委員会.
○有山崧生誕100周年記念集会実行委員会（2012）
『有山崧生誕100周年記念集会記録　有山崧の視点から、いま図書館を問う』有山崧生誕100周年記念集会実行委員会.
○石嶋日出夫（2015）『移動図書館ひまわり号』

参考映像

○映像でみる戦後日本図書館のあゆみ制作チーム（2014）
『映像でみる戦後日本図書館のあゆみ』日本図書館協会.

（日野第六小学校　島谷　直樹）

（２）郷土日野の発展に尽くした『林　丈太郎』を通して
ぼくたち　わたしたちのまち　日野に親しみを感じる
～“平山おかぼ”を栽培、収穫することを通して～

（幼稚園　年長児）

１．教材化の意図

幼児期は心情、意欲、態度、基本的な生活習慣など、生涯にわたる人間形成の基礎が培われる極めて重要な時期である。幼児は、生活や遊びにおける直接的・具体的な体験を通して情緒的・知的な発達や社会性を涵養し、人間として社会の一員としてよりよく生きるための基礎を獲得していく。

今年度の郷土教育のテーマ「郷土日野の発展に尽くした人々」を踏まえて実践していくにあたり、幼児に知識や情報を与えることに終始せずに、体験活動を通して学ぶ機会を保障していきたいと考えた。

幼稚園では、「思考力」「判断力」「表現力」の芽生えを培うことを通して、「生きる力の基礎を培う」教育を行っている。「生きる力の基礎を培う」体験活動として、平成22年度よりNPO法人大地といのちの会理事吉田俊道氏にご指導を頂きながら、生ごみをリサイクルして土作りを行ない、その土を使って元気な野菜を作るという取り組みを行っている。食の循環（土作り、栽培、収穫、調理、食べること）を体験する中で、幼児が野菜作りを楽しみ収穫した野菜を食べる喜びを感じられるように、栽培方法や教師の援助を工夫し、食への関心を高める指導を実施している。

そこで、今回は、野菜から米へと取り組みを広げ、明治時代に平山の地で実践していた水田ではなく畑でも育てることができる“平山おかぼ”を育てる実体験を通して、日野の農業の発展に大きな功績を残した『林　丈太郎』について知り、子ども達が住む日野に親しみを感じられるようにしていきたいと考えた。

２．指導計画

（１）幼稚園教育要領との関連

幼稚園教育要領では、「健康」「人間関係」「環境」「言葉」「表現」の５領域に分けて、ねらいや内容が記されている。今回の教材を通して、地域の方々の協力を得ながら、教師や友達と土作り、栽培から実際に食べるまでの活動に取り組む。その過程の中で考え試し工夫する、発見や気付きを伝え合う、喜びや感動を共感し合う、米の大切さを知る。米作りに関わる人々に感謝の気持ちをもつ体験活動の中では、５つの領域全てが総合的に関連した内容を経験し、学ぶことができると考えた。

（２）活動のねらい

○自分達が住む日野で発見された“平山おかぼ”を栽培、収穫し、食べることに関心をもつ。
○米作りの楽しさや大変さに気付き、米を大切にする気持ちや米作りに関わる人々に感謝の気持ちをもつ。
○“平山おかぼ”を作った『林　丈太郎』について知る。

（３）活動内容

①土作りをしよう！
②“平山おかぼ”の稲を植えよう！

③“平山おかぼ”の稲～米の実り方を想像して絵を描こう！
④“平山おかぼ”を栽培していく中で、気付いたことを伝え合おう！
⑤“平山おかぼ”の稲刈りをしよう！
⑥“平山おかぼ”の稲～稲穂（米）の実り方を観察しながら絵を描こう！
⑦“平山おかぼ”の脱穀、もみすり、選別をしよう！
⑧“平山おかぼ”の精米をしよう！
⑨“平山おかぼ”を食べてみよう！
⑩“平山おかぼ”のもみを発見した『林　丈太郎』について知ろう！

“平山おかぼ”作りの流れ

６月	７月	８月	９月	10月	11月
土作り	稲を植える 草取り・水やり →		稲を刈る 稲を干す →		脱穀・もみすり・選別 精米・食べる

活動内容①　「土作りをしよう！」　６月13日（月）

【ねらい】：土作りのやり方や手順が分かり、自分から進んで取り組む。

	具体的な活動内容	教師の援助・指導上の留意点	幼児の反応
導入	・土作りのやり方や手順を確認する。	・昨年の体験を振り返りながら、やり方や手順を確認していく。 ・次の栽培物を考えさせ期待感をもって取り組めるようにする。	野菜くずを手でちぎったり、足で踏んだりして小さくするよ。ぼかしと混ぜるよ。
展開	・バリアを手に取り、野菜の名前を考えて伝え合う。 ・成長点と考える部分を手に取り、野菜の名前、どこの部分なのかを考えて伝え合う。 ・野菜くずを手でちぎったり、足で踏んだりして砕く。 ・ぼかしと混ぜ合わせた後、土に運んでよく混ぜ、雑草とシートを被せる。	・バリアの意味を考えられるように投げかけていく。 ・幼児が、何の野菜のどこの部分を生長点と考えたのか、また考えた幼児なりの理由を聞いていく。 ※　バリア：もみがら	 土とよく混ぜようね。
まとめ	・３日後の土の様子について想像したり期待感をもったりする。	・早く分解されるもの、時間がかかるものと、その理由を発表し合い、友達の考えにも触れられるようにしていく。	

活動内容②　「“平山おかぼ”の稲を植えよう！」　７月１日（金）

【ねらい】○“平山おかぼ”という米があり、自分達でも米作りができることを知る。

○　畑における米作りに興味関心をもつ。

	具体的な活動内容	教師の援助・指導上の留意点	幼児の反応
導入	・トマトやピーマン、ナス、オクラ、ジャガイモなど、これまで栽培、収穫してきた野菜について振り返る。	・これまでの栽培、収穫物について振り返りながら、米作りへと関心を向けていく。	 ピーマンやナス…いろんな野菜を作ってきたね。 プランターで作れる米があるよ。
展開	・農家　小林和男さんから「水田ではなく畑で作ることができる米～“平山おかぼ”」の話を聞く。 ・発泡スチロール容器の中で育つ“平山おかぼ”を見る。 ・稲の植え方を教えてもらいながら実際に植えていく。	・米作り名人である小林和男さんを紹介し親しみをもたせる。 ・米作りに関心をもって話が聞けるようにしていく。 ・小林和男さんによるご指導のもと、子ども達が稲を植える様子を見守り、つぶやきを受け止め共感していく。	 稲の根っこをもって植えるんだね。 菌ちゃんの土だから、おいしい米ができるよ。
まとめ	・“平山おかぼ”を育てていく上での注意点を聞く。 お米が大きくなるためには、お水をしっかりあげましょう。雑草をしっかり取りましょう。	・注意点を一緒に確認していく。	僕たちのグループの“おかぼ”だからみんなでお世話しようね。 水はこれくらいでいいのかな？

活動内容③　「“平山おかぼ”の稲～米の実り方を想像して絵を描こう！」　７月14日（木）

【ねらい】○“平山おかぼ”の生育を楽しみにしながら、自分なりに想像を膨らませて絵を描く。

	具体的な活動内容	教師の援助・指導上の留意点	幼児の反応
導入	・見る、嗅ぐ、触れるなど諸感覚を使って、現在の“平山おかぼ”を捉える。 ・米はどのように実るのか、自分なりに考えたことを身振りや手振り、言葉で表現する。	・次週から夏休みに入るため、見る、嗅ぐ、触れるなど諸感覚を使って、現在の“平山おかぼ”を捉えられるようにする。 ・幼児が水やりをしながら、「米は、ピーマンやトマトのように地上にできるのか？ジャガイモやタマネギのように地下にできるのか？」と話していたことを話題にする。 ・各々の幼児が自分なりの考えを発言できるように、関心を向けて聞いていく。 ・自分なりの考えを絵に表現することを提案する。	まだ小さいね。赤ちゃんだね。 米は白い！白い花が咲くのかな？ 米はいくつできるのかな？
展開	・米はどのように大きく実るのか、自分なりに考えたことを絵に描き表す。 	・各々の幼児が表現したことを読み取ったり聞き取ったりしながら、言語化していく。 ・言語化していくことで、友達の考えにも触れられるようにし自分の考えを深めたり広げたりできるようにしていく。 	 根っこに米が１個ずつなるんだよ。 葉っぱに米ができるよ。 葉っぱから出てくるんだよ。
まとめ	・絵を見ながら、友達の考えに触れる。 ・友達の考えを聞き、絵を通して見て、自分の考えたことと比べる。 ・２学期、“平山おかぼ”が大きくなっていることに期待感をもつ。	おばあちゃん家で見た時こうなっていたよ！ ・学級全体で、各々の幼児が表現した作品を見合うことで、友達の考えに触れられるようにする。	根っこが長く伸びて、１本の根っこに、いっぱいできるんだよ。

活動内容④「“平山おかぼ”を栽培していく中で、気付いたことを伝え合おう！」　９月２日（金）

【ねらい】○“平山おかぼ”の変化や生長に気付き、気付いたことを伝え合う。

	具体的な活動内容	教師の援助・指導上の留意点	幼児の反応
導入	・教師が提示した１学期の“平山おかぼ”の写真をみながら、以前の様子を思い出す。 	・１学期の終わりに撮影した“平山おかぼ”の写真を見せながら、以前の様子を思い出せるようにする。	 ちっちゃいね。 ひょろひょろしている。
展開	・見る、嗅ぐ、触れるなど諸感覚を使って、現在の“平山おかぼ”を捉える。 ・１学期の様子（特徴）と比べて変化したことや気付いたことなどを言葉にして伝え合う。 	・現在の“平山おかぼ”を見る、嗅ぐ、触れるなど諸感覚を使って捉えられるようにする。 ・各々の幼児が話したことを面白がったり不思議がったりしながら、関心を向けて話を聞いていく。 ・自分なりに興味を追究していけるように答えをすぐに示さず、子ども達が考えたり試したり調べたりする動きに繋がっていくように関わる。	背が高くなっている。前は、僕のズボンのここくらいだったんだよ。 白い花が咲いている。 この中に、お米が入っているのかな？
まとめ	・小学生も“平山おかぼ”を育てていることを知り、自分達も頑張って育てていこうという気持ちをもつ。 	・８月18日、平山小学校で小林和男さんから、伺った今後の注意点を子ども達に伝える。 「葉が折れ曲がっている場合、虫がいる証拠、穂が伸びてきたら、虫や鳥に気を付けること。」 「ネットが必要。さらに、水やりと草取りを行うこと。」	 お米が入っていて重いから垂れ下がってきたのかな？

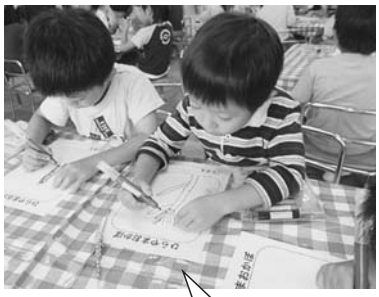
活動内容⑤　「“平山おかぼ”の稲刈りをしよう！」　　９月９日（金）～（２週間）

【ねらい】○“平山おかぼ”の稲刈りの仕方を知り、やってみようとする。

	具体的な活動内容	教師の援助・指導上の留意点	幼児の反応
導入	・『おこめができた!!』という絵本の読み聞かせを聞く。 ・米を収穫することに期待感をもつ。 ・収穫できる状態かどうか実際に見て確かめる。	・小林和男さんが来園し、「稲刈りができる米がある」という話を子ども達に伝える。 ・小林和男さんから伺った収穫可能な米の状態を伝える。	 稲が黄色くなったら収穫できるサインなんだね。
展開	・稲刈りのやり方を聞く。 ・はさみで、稲の根元を切る。	・小林和男さんから伺った稲刈りのやり方を伝え、教師が実際に行って見せる。	 お米が落ちないように、しっかり持って切るね。 太くて硬い！切れない～！
まとめ	・稲刈りの後は稲を束ねて干す。 ・次回の稲刈りを楽しみにする。	・稲刈りの後は、稲を束ねて干しておくことを伝える。 ・今回、収穫できなかった稲は、見たり触れたりしながら収穫可能かどうかを調べていくことを伝える。	 稲はお部屋に干した方がいいね。 外だと、台風で飛ばされるかもしれないよ。鳥とか虫に食べられるかもしれないよ。

活動内容⑥　「“平山おかぼ”の稲～稲穂（米）の実り方を観察しながら絵を描こう！」10月８日（土）

【ねらい】○“平山おかぼ”を見たり触れたり匂いを嗅いだりしながら絵を描く。

	具体的な活動内容	教師の援助・指導上の留意点	幼児の反応
導入	・稲刈りをした“平山おかぼ”を見る、嗅ぐ、触れるなど諸感覚を使って捉える。 ・稲穂（米の実り方）で気付いたことを伝え合う。 ・友達の話に関心を向けて聞く。	・７月に、米の実り方を想像しながら各々の幼児が描いた絵を見ることができるようにする。 ・諸感覚を使って、幼児が自分なりに、実際はどのように米が実ったのかを、幼児自らが捉えたり気付いたりできるように働き掛けていく。 ・見る、嗅ぐ、触れる、友達の声を聞くことで得られる情報を大切にしていく。 ・各々の幼児が自分なりの考えを自由に発言できるように、関心を向けながら話を聞いていく。 ・自分なりの考えを絵に表現することを提案する。	 お米って硬いね。  お米もバリア（皮）がついている！
展開	・米はどのように実るのか、観察しながら絵に描き表す。	・各々の幼児が表現したことを読み取ったり聞き取ったりしながら、言語化していく。 ・言語化していくことで友達の考えにも触れられるようにし、自分の考えを深めたり広げたりできるようにしていく。	 いいにおいがする。
まとめ	・絵を見ながら、友達の考えに触れる。 ・次の活動（脱穀・もみすり）に期待感をもつ。	・学級全体の中で、絵を見合い、友達の考えに触れられるようにする。 ・次回の活動を楽しみにできるように具体的に伝える。	お米はいくつついているのかな？

活動内容⑦　「“平山おかぼ”の脱穀、もみすり、選別をしよう！」　11月１日（火）～

【ねらい】○“平山おかぼ”の脱穀、もみすり、選別の仕方を知り、関心をもってやってみようとする。
○脱穀やもみすり、選別の道具に関心をもち、見たり触れたり使ったりすることを楽しむ。

	具体的な活動内容	教師の援助・指導上の留意点	幼児の反応
導入	・稲刈りをした後“平山おかぼ”を白米にしていくまでの過程を聞き関心をもつ。 ・郷土資料館の方々から、具体的なやり方を聞く。 ①脱穀⇒『こきばし(割箸)』 ②もみすり⇒『すり鉢･ゴルフボール』 ③選別⇒『唐箕』 ①脱穀について 稲の束からもみをはずすこと 『こきばし』～稲穂をしごき稲束からもみをはずす。 ②もみすりについて 脱穀したもみ殻をむき玄米にすること 『すり鉢、ゴルフボール』もみをすり鉢に入れゴルフボールでこする。 ③選別について もみ殻と玄米、屑を分けること 『唐箕』～羽根車で風を起こして、もみ殻や屑を飛ばす。	・「お米に変身させよう大作戦！」と題して、米が食べられるようになるまでの過程を視覚教材を通して伝える。 ・“ものしり博士”である郷土資料館の３名（秦さん・渡辺さん・白川さん）の方々をゲストティチャーとして迎え、道具を使いながら具体的なやり方を見せて頂く。	 これからお米に変身させていきます。 おもしろそう！ 早くやってみたい！ もみが、すう～って取れていくね。 お米が生まれた～!!
展開	①脱穀⇒『こきばし(割箸)』 ②もみすり⇒『すり鉢・ゴルフボール』 ③選別⇒『唐箕(とうみ)』 もみ もみ殻 玄米	・幼児が楽しさを感じて取り組めるように、具体的なやり方やコツを示したり、友達の姿を通してヒントを得たりできるようにしていく。 ・１粒１粒を大切にする意識をもたせながら、丁寧に作業を行えるように支えていく。 ・幼児が関心をもって見たり触れたりしている姿、面白がったり不思議がったりしている姿を見取り共感していく。	

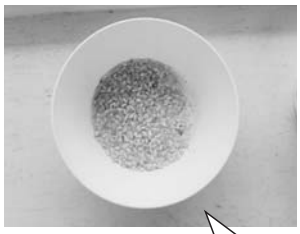
		・幼児の発見や気付きに教師が気付き受け止め言語化していき、幼児自ら、自分の発見や気付きを意識できるようにしていく。 ・もみすりによって、玄米ともみ殻を分別できる皿を用意しておく。 ・１粒でも、もみ殻がとれた嬉しさと喜びを感じられるようにやり方やコツを具体的に示し援助していく。	 ジャラジャラ出てきた。 割箸で、もみをとって脱穀していくのが面白かった。
まとめ	・脱穀、もみすり、選別の体験について振り返る。 ・自分なりの感想を発表する。 ・友達の発表を聞く。 幼児は、毎日のように根気よくもみすりに取り組み、約２週間かけて最後までやり遂げました。	・一連の体験について振り返ることができるように言葉を掛ける。 ・面白さや楽しさ、難しさや大変さなどを感じた理由も聞いていく。 ・友達の話を聞いて、自分と同じ気持ちだった友達がいることに気付いたり共感したりできるようにしていく。 ・今後の取り組みについて、次回はもみすりの続きをすることを伝える。その後は、精米し、自宅に持ち帰り食べることを伝える。 ・地域の農家小林和男さんから頂いた“平山おかぼ”は、『林　丈太郎』が開発したことを伝える。 ・『林　丈太郎』について、よくご存じの小杉博司先生から話を聞くことを伝える。 ・『林　丈太郎』は、子ども達と同じ、ひのっ子であることを伝え、日野に親しみと関心がもてるようにしていく。	 ゴルフボールで、ごりごりしたら、籾殻が剥けて、お米がいっぱい生まれてきて嬉しかった。 選別した時に、からっぽのもみは外に飛んでいくのに、お米が入っているもみは、穴から出てきて、なんでだろう？って思った。 今日は、お米がいくつ生まれるかな？ お米の数を数えてみよう！ 1，2，3…

活動内容⑧　「“平山おかぼ”の精米をしよう！」　11月14日（月）～（２週間）

【ねらい】○“平山おかぼ”の精米の仕方を知り、やってみようする。

活動内容⑨　“平山おかぼ”を食べてみよう！　11月18日（金）

【ねらい】○家庭に持ち帰り、炊飯してもらった“平山おかぼ”を食べる。

	具体的な活動内容	教師の援助・指導上の留意点	幼児の反応
導入	・脱穀、もみすり、選別の体験を振り返る。 もみ もみ殻 玄米 ・精米のやり方に関心をもつ。	・実物を見せながら、脱穀をしてもみをとったこと、もみすりをしてもみ殻を取り除き玄米を取り出したことを振り返る。 ・もみすりの際に、米の色が話題になっていたことを取り上げ、白米にする精米の方法を伝える。	 玄米って白くない。黄色？緑色？ 棒で突いて白くしていくんだね。ぬかが取れると白くなるんだ。
展開	・精米のやり方が分かりやってみる。	・幼児が実際に試していくことで、力を加減したりコツをつかんだりできるようにしていく。 強くやりすぎたら、米がボロボロになっちゃった。 なかなか白くならない！	
まとめ	・白米を持ち帰り、炊飯して食べることに期待感をもつ。 お母さんがお弁当に“おかぼ”を入れてくれた～。	・白米を持ち帰り、自宅で炊飯してもらうように伝える。 ・保護者に対しても、これまでの取り組みを伝え協力を求める。	 いつものごはんよりおいしい！ “おかぼ”おにぎりいいにおい！

活動内容⑩　“平山おかぼ”のもみを発見した『林　丈太郎』について知ろう！　　11月29日（火）

【ねらい】○『林　丈太郎』がなぜ、“平山おかぼ”を開発したのかを知る。

	具体的な活動内容	教師の援助・指導上の留意点	幼児の反応
導入	・“平山おかぼ”を栽培、収穫し、脱穀、もみすり、精米をし、実際に食べたというこれまでの一連の活動を振り返り、自分なりの感想を話したり、友達の感想を聞いたりする。 ・顧問小杉博司先生の話に関心をもつ。	・視覚教材を用いながら、“平山おかぼ”のこれまでの一連の活動を振り返る。 ・“平山おかぼ”を開発したのは、『林　丈太郎』であることを伝える。 ・『林　丈太郎』に詳しい物知り博士小杉博司先生を紹介する。	
展開	・顧問小杉博司先生の話を聞く。 	・昔は、米を食べたくても食べることができず、お腹を空かせている人が多かったこと、川が近くにないところに住む人たちは、水を引いて水田を作ることができず米作りに困っていたこと、そこで、畑でも栽培できる米の開発が必要だったことを、視覚教材を用いながら話して頂く。	食べるものがなかったの？ ご飯に大根を混ぜたの？うさぎを食べたの？
まとめ	・顧問小杉博司先生の話を振り返り、自分なりの感想を話したり、友達の感想を聞いたりする。	・自分達が住む日野に、“おかぼ”開発によって、人々の力になった『林　丈太郎』がいたこと、現在でも、『林　丈太郎』の思いを受け継ぐ農家の小林和男さんがいることを振り返り、自分達と同じ“ひのっ子”であることを伝え、より日野に親しみや関心がもてるようにしていく。	日野には、昔、お腹がすいて困っている人たちを“おかぼ”で助けたアンパンマンみたいな人がいたんだね。 世界中にはまだお腹がすいて困っている人たちがいるんだね。 日野には、みんなのために頑張った人がいたんだね。

３．成果と課題

（１）成果

・“平山おかぼ”の栽培活動は長期に渡るため、子ども達の興味や関心の持続が課題と考えていた。変化や生長が捉えやすく、面白さや楽しさ不思議さ喜びを味わうなど感動体験を伴っていたことで、最後まで楽しみながら取り組む姿が見られた。実体験を伴う活動により、子ども達の心に刻まれ、この体験を通して学んだことが小学校以降の学びに繋がっていくと思われる。

・“平山おかぼ”を実際に栽培収穫することを通して、水田ではなく畑でも身近なプランターや発泡容器などでも育てられることが実証できた。
さらに“平山おかぼ”は、日野市平山村で生まれた『林　丈太郎』が発見したもみであり、大正期から昭和にかけ日本の食糧増産に大きく貢献した人物が日野に存在していたこと、現在もなお『林　丈太郎』の思いを受け継いでいる農家小林和男さんがいらっしゃること（平成９年ころより林丈太郎の地元である日野市平山の平山小学校で種子の捜索が始まり、地元のＪＡ東京みなみや協力農家で平山小学校の学童農園を熱心に指導していた小林和男氏により農水省生物資源研究所のジーンバンクに種子のあることを発見し、少量の種子を分けてもらい徐々に増やし復活させた）を保護者に周知することができ、“平山おかぼ”を通して日野の自然、歴史を継承していくという行為ができた。

・“平山おかぼ”という教材を活用されている小学校（平山小学校、南平小学校、滝合小学校）と出会うことができ、郷土教育の視点からも幼小連携教育を進めていく糸口を見つけることができた。

・郷土資料館との連携を実現することができ、実践を通して親子共に親しみを感じ足を運んでみたい場所としてつないでいくことができた。

（２）課題

・今年度限りの取り組みで終わらせず、次年度以降も郷土資料館や農家の方々など地域の教育力を活用しながら継続して取り組み、“平山おかぼ”という郷土教材の活用普及を目指していきたい。

・“平山おかぼ”を栽培、収穫し、食べるという体験活動を通した郷土教育を幼小連携教育の糸口として活用し、互恵性のある連携を目指していきたい。

・『林　丈太郎』・“平山おかぼ”について、「知らない」「分からない」と答えた保護者が多く、「子どもが楽しそうに体験している姿を見たり話を聞いたりすることを通して関心をもった」という感想を聞くことができた。幼児の興味関心を涵養していくためには家庭との連携が欠かせない。親子で一緒に取り組める体験活動の機会を保障し、親子で日野に親しみが感じられるような郷土教育の実践を目指していきたい。

“平山おかぼ”という教材を活用しながら郷土教育を実践していくにあたり、ご協力頂きました農家の小林和男さん、郷土資料館の秦哲子さん、市政図書室の高橋薫子さん、平山小学校校長五十嵐俊子先生をはじめ諸先生方、ご指導頂きました郷土教育推進研究委員会顧問小杉博司先生には、心より感謝しお礼を申し上げます。

参考文献

『わたしたちの日野』日野市教育委員会
『のびゆく日野』中学校社会科副読本　日野市教育委員会
『開校　130周年記念誌　ひらやま』日野市立平山小学校
『平成17年度　すすめ平山新選組　農業体験の記録』日野市立平山小学校
『ひらやま』平山小学校副読本　日野市立平山小学校
『日野の歴史と文化』日野市史談会

（第七幼稚園　森　陽子）

（３）日野市の用水「向島用水」に関心をもつ
～身近な用水について知り、より自分の住む町のことが好きになる～

（幼稚園　年長児）

１．教材化の意図

第五幼稚園のすぐ近くには程久保川が流れ、登降園時には親子で川の流れや川に住む亀や鯉などの生き物を見たり、川の様子から季節の変化を感じたりすることができる。また、園や園児の家の近くには用水も流れており、毎年初夏を向かえる頃には、５歳児が地域の自然に触れたり、水に親しんだりすることを目的に向島用水に出かけ、ザリガニ釣りの活動を行っている。園児たちは実体験を通して、水の郷、日野に住んでいることを感じる機会が多くある。そこで、今年度は第五幼稚園の子どもたちにとって身近で、実体験を通して日野の良さを感じることができる「用水」を教材としてとりあげ、実際に用水へ出かけたり遊んだりする中で、ザリガニがたくさんいた用水とはどのようなところなのか、昔はどのような場所だったのかを知り、自分の住む町の良さや親しみを感じる活動内容を考えることとした。

２．指導計画

（１）幼稚園教育要領との関連

幼稚園教育要領には、幼稚園修了までに育つことが期待される生きる力の基礎となる心情、意欲、態度を幼児の発達の側面から、「健康」「人間関係」「環境」「言葉」「表現」の５つの領域に分け、ねらいや内容が明記されている。今回の活動で、「環境」の領域では、自分たちの住む町の周囲の様々な環境に好奇心や探求心をもってかかわる力を養うこと。「人間関係」の領域では、用水について詳しく知っている方から話を聞いたり、触れ合ったりすることを通して人への親しみの気持ちや人とかかわる楽しさを感じること。「言葉」の領域では、経験したことや考えたことなどを自分なりの言葉で表現し、相手の話を聞こうとする意欲や態度を体験を通して学ぶことができると考える

（２）子どもたちの実態

・自分たちの住む身近な場所に小さな川が流れていることや、そこにはザリガニや魚、鳥などの生き物がいることを知っている子もいる。
・向島用水に園外保育で出かけ、友達と一緒にザリガニ釣りを楽しんだり、幼稚園での経験後に家族でザリガニ釣りを楽しんだりする幼児もいる。
・子どもたちの祖父母の世代が第五幼稚園の周辺に住んでいる家庭と、子どもたちの親世代から日野に移り住み、日野について良く知らない家庭がある。

（３）活動のねらい

○日野市の用水が昔、そして今どのように活用されているのかを知り、興味・関心をもつ。
○日野市の用水について話を聞き、実際に見ることで地域への親しみを深め、用水の良さを知る。
○用水に住む生き物に興味や関心をもち、生き物の住処となっている用水を大切にしていく気持ちをもつ。

３．活動内容

①「７月　向島用水にザリガニ釣りに出かける」

実際の幼児のことば

	具体的な活動内容	教師の援助・指導上の配慮点等	幼児の反応
導入	・向島用水にザリガニ釣りにいくことを知る。	・自分たちの住む身近な場所にある用水に、ザリガニがたくさんいることを伝え、興味をもたせる。	・ザリガニ釣りを行うことを楽しみにしていて、ザリガニを釣る道具を自分で作ったり、ザリガニが好む餌を予想したりしている。
展開	・向島用水へ行きザリガニを釣る。	・自分で作った道具や考えた餌でザリガニを釣ることができたかを見守り、子どもたちの気づきや発見を認める。 ・ザリガニを釣れた喜びに共感する。 ・ザリガニは石の陰や用水の側面に隠れていること、はさみで餌を挟んだ時にそっとひきあげていくこと等、ザリガニ釣りのコツに気付かせたり、知らせたりしていく。	・夢中になってザリガニ釣りを楽しむ。 ・何の餌をザリガニが好むのか、どれが釣りやすいのかを考えたり工夫しながらザリガニ釣りを楽しんでいる。 ザリガニ釣れたよ！ 用水には沢山ザリガニがいるんだね。
まとめ	・用水の様子やザリガニ釣りについて感じたことを話し合う。	・幼稚園に持ち帰ったザリガニも生き物であることを確認し、小さな生き物の扱い方や飼育について気付かせる。	・自分たちで釣ったザリガニに興味があり、見たり触ろうとしたりする。

②「幼稚園付近を流れる用水をたどって歩く・浅川の昔話や向島用水にある水車について知る」

	具体的な活動内容	教師の援助・指導上の配慮点等	幼児の反応
導入	・せせらぎ農園に大根の収穫に出かけた際に、農園の中を流れる用水を見たり、幼稚園までの帰り道に流れている用水をたどって歩いたりする。	・ザリガニ釣りの経験を思い出させながら、向島用水とせせらぎ農園の小川や住宅街を流れる小川がつながっていることを知らせる。 ・サツマイモの苗植えを行った際に見た田んぼの水や畑の野菜を育てる際に、用水の水を使っていることに気付かせる。	・園の近くや今までに通ったことのない道に用水が流れていることを知り、たどって歩くことを楽しむ。
展開	・「浅川の大鯉」の紙芝居を見て向島用水の水が浅川からひかれていることを知る。 ・水車の仕組みについて聞いたり、模型を見たりする。	・浅川が出てくる昔話（紙芝居：自作教材）を読み、向島用水が浅川から流れていることや、昔の人々が用水をどのように活用し、現在はどのように活用しているのかを考えるよう投げかけ、向島用水に興味や関心がもてるようにする。 ・水車に興味がもてるように、模型を見せながら仕組みや役割について伝える。	・浅川や水車について、見たことがあることや知っていることを友達や教師に伝える。 浅川に行ったことあるよ！ 用水の水車を見たけれど、動いてなかったよ。
まとめ	・浅川から用水の水を取り入れている場所や現在の用水の様子を見に行くことを聞く。	・用水にまつわる話や生き物、水車の話などを聞くことを伝え、楽しみにできるようにする。	・友達と一緒に出かけることを楽しみにしている。

③「向島用水を辿り、用水にまつわる話を聞く」

	具体的な活動内容	教師の援助・指導上の配慮点等	幼児の反応（実際の幼児のことば）
導入	・向島用水で見ることや考えることを教師から聞き、幼稚園を出発する。	・前回で行った指導を思い出させ、向島用水に出かける目的を確認してから出発できるようにする。	・前回の話を思い出し、教師の問いかけに答える。
展開	・浅川にある向島用水の取水堰で郷土資料館の白川さんから話を聞いた後、用水の流れをたどりながら歩く。 ・水車小屋の前で「日野の水車活用プロジェクト」の児山さんの紙芝居を見たり、話を聞いたりする。 ・白川さんから用水の昔と今の使われ方について話を聞く。	・郷土資料館の白川さんの話を、興味をもって聞いたり、発見を楽しんだりできるよう、教師が興味をもって聞く姿や発見や気付きを楽しむ姿を示す。また、子どもたちの姿を認めたり広めたりする。 ・取水堰から引いた用水の流れをたどって歩くことに興味がもてるようにする。流れが見えない（地下を流れている）場所はどこを流れているのか予想させたり気付かせたりしながら歩く。 ・紙芝居を通して、用水の水で水車が動き、その力を使って脱穀等を行っていたことを知らせ、水車についての理解を深められるようにする。 ・用水の昔と今の使い方の変化やこれからどのようにかかわってほしいか等の白川さんの思いや話を教師自身が受け止める姿を示したり、子どもたちに伝えたりして、用水を大切にしようという気持ちを感じることができるようにする。	 用水はここから始まるんだね！ でも、今は入り口がしまっているみたいだよ！ ・白川さんや児山さんの話を、興味をもって聞いている。 ここには夏にお米があったよね。
まとめ	・白川さんや児山さん、教師の話を聞いて感じたこと、わかったことや用水をたどって歩いた体験で感じたこと、考えたことを伝え合う。	・これまでの活動を振り返りながら、感じたこと印象に残ったことを伝える機会を設け、自分の考えを表現する楽しさを味わわせる。 ・現在やこれから、用水は町の中でどのような存在なのか、どのようにかかわっていくといいのかに気付けるように子どもたちに投げかけ、用水を大切にしていく気持ちを育む。	・体験を通して感じたこと、考えたことを進んでみんなに伝えようとする子がいる。

４．成果と課題

（１）成果

○昔の人々が生活や暮らしのために用水を作り、用水の水が米を育てたり水車を動かしたりしていたことなどやこれからの用水や水車の活用の仕方について、用水や水車について詳しい方から話を聞くことで自分たちの住む身近な場所に興味・関心や親しみの気持ちをもつ機会となった。また、用水の良さを知ったり、自分たちの住む町を大切にしようと感じたりすることができたと思われる。

○例年、向島用水の園外保育は、地域の自然に親しんだり季節を感じたり小さな生き物に関心をもたせたりできる活動ととらえ行ってきたが、今回の取り組みを通して日野が「水の郷」であることを教師自身が改めて認識することができた。また、自分が住むまちで大切にされてきた歴史や文化を子どもたちに伝えられるよう、今後の指導にも取り入れていこうと考えることができた。

○用水で釣ってきたザリガニを幼稚園で育てたり、降園時やクラス便り等で活動内容を伝えたりすることで、保護者にも地域へ興味をもってもらう機会をつくることができた。

（２）課題

○子どもたちの地域への興味を引き出すには、教師自身が地域へ興味や関心をもち、その教材をどのように生かしていくかを考えた教材研究を深める必要がある。今後も幼児の視点に合わせた保育を心掛けていきたい。

○向島用水でのザリガニ釣りの経験後に郷土教育の教材として用水を取り上げることを考えたため、ザリガニ釣りから継続的に保育に取り入れることができず、それぞれの活動がつながらない内容となってしまった。一度だけの体験や話を聞く活動で終わらせず、その場所に触れたり遊んだりできる実体験を通して学べるように計画していきたい。

５．引用参考文献

・広報ひの　1994年10月１日　856号
・広報ひの　1990年12月１日　764号
・日野の歴史と文化　第18号　1983年３月30日
・日野の歴史と民俗　平成24年８月15日　第1285号
・日野の歴史と民俗　145号
・水の郷　日野　～身近な水辺の保全と再生～
・日野の用水を活用した総合的な学習の事例－教材化を中心に－　小坂克信
・日野の用水を探る（１）－日野用水上堰・下堰　東光寺小学校周辺－
・2010/11　日野市環境情報センター年報　VOL.6　平成25年３月
・＜日野の歴史と文化＞　18号　昭和58.4.20
・＜日野の歴史と文化＞　17号　1982.8.30
・日野市昔話代表的作品集
・日野の昔話（九）　元木の不動さま－宮－
・日野の昔話シリーズ　No.28　宮のさかさ川　田中紀子
・日野の昔話シリーズ　No.36　米作と共同水車のこと　田中紀子
・事例集８　豊田用水路～見たい！聞きたい！また行きたい！～

“向島用水”という教材を活用しながら、郷土教育を実践していくにあたり、ご協力いただきました郷土資料館の秦哲子さん、白川未来さん、市政図書室の高橋薫子さん、水車活用プロジェクトの児山由美子さんには、心より感謝し、お礼を申し上げます。

（第五幼稚園　髙頭　志枝）

（４）広がる情報ネットワーク
情報ネットワークでつながる図書館

（第５学年　社会科）

１．教材化の意図

５年生は、「くらしを支える情報」の単元において、我が国の情報産業や情報化した社会の様子について、調査したり資料を活用したりして調べ、情報化の進展は国民の生活に大きな影響を及ぼしていることや情報の有効な活用が大切であることを学習する。主として、放送、新聞、図書館などの産業と国民生活とのかかわり、情報化した社会の様子と国民生活とのかかわりについて学ぶが、後者については、「情報ネットワークを有効に活用して公共サービスの向上に努めている教育、福祉、医療、防災などの中から選択して取り上げること」が望ましい。

教科書では、子供たちに身近な図書館の事例から導入している。情報ネットワークが進んでいる図書館についての学習から導入し、日野市の福祉、医療、防災などの中から、調べたい情報ネットワークをグループ学習することで、郷土の情報ネットワークについての理解を深めていきたい。

２．指導計画

（１）単元のねらい

情報化した社会において、人々がよりよい生活を送るためには、情報をより有効に活用することが大切である。本小単元では、情報ネットワークを利用した公共サービスの便利さについて調べ、さまざまな場面で活用されている情報ネットワークにより、私たちの生活がどのように安全かつ便利になっているか考えをまとめることができるようにする。

（２）単元の指導計画（４時間）

	時	ねらい	主な学習活動・内容	資料　評価
つかむ	①本時	情報ネットワークを利用した図書館サービスの便利さについて知り、他にもさまざまな場面で活用されている情報ネットワークサービスについて調べる意欲をもつことができるようにする。	○図書館と私たちのつながりについて振り返り、私たちにとってどのような場所かを考える。 ○昔の図書館がどのような場所であったのかを知り、現在の図書館との違いをおさえる。 ○市内の図書館の中をつなぐ情報ネットワークサービスを知り、日野市が行っている他の情報ネットワークサービスについて予想しながら話し合い学習問題を立てる。 ・高齢者見守り　・図書館の本 ・防災 ・不審者 ・医療	・日野図書館の歩み ・自動検索機の写真 ・昔の図書館の様子の写真 ・インターネットによる本の検索画面 ・市内の図書館ネットワーク図 ○情報ネットワークへの関心が高まったか。（関・意） ○暮らしの中の情報ネットワーク活用について調べる学習問題を考え、表現している。（思）

調べる	②	情報ネットワークを利用した日野市の取り組みについて調べ、どのように便利になったのかを捉えることができるようにする。	○さまざまな資料から調べたいテーマを決め、どのような便利さがあるのかをまとめる。 ○テーマ別に分かれ、グループ学習。	・本 ・パソコン ・教材・資料を提示 ○くらしの中の情報ネットワーク活用について調べる学習問題などを考え、表現している。 （思・判・表）
調べる　深める	③	地域が一体となったネットワークの広がりとその利便性について捉えることができるようにする。	○さまざまな資料を読み取って調べる。 ○情報ネットワークというしくみは、人々の命や健康を守るためにも重要であることをおさえる。	・電子カルテ、不審者情報メールなど ○ネットワークの様子を資料から正確に読み取っている。 （技） ○情報ネットワークの役割について、自分たちの生活と関連付けて考え、表現している。 （思・判・表）
まとめる	④	情報ネットワークを活用して、人々の生活がどのように便利になったかをまとめ、発表できるようにする。	○自分たちの生活の中で、情報ネットワークをどのように生かしていくべきかをまとめ、発表する。 ○公共機関以外の情報ネットワークを利用した場面を想起し、発表する。	○情報ネットワークにより、誰がどのように便利になっているかをさまざまな場面から理解している。 （知） ○さまざまな機関や人をつなぐ情報ネットワークの広がりが、人々の生活を安全かつ便利なものにしていることを考え、表現している。 （思・判・表）

３．本時の指導

（１）本時のねらい

日野市の図書館について、ウエブサイトを実際に操作しながら学習し、情報ネットワークを利用した公共サービスについて学習することへの意欲を高め、調べたいテーマ（学習問題）を立てることができるようにする。

（２）本時の展開（１/４時間）

<table>
<tr><th></th><th>主な学習活動・内容</th><th>指導上の留意点　評価</th></tr>
<tr><td>導入</td><td>○図書館はどんな場所なのか、体験をもとに話し合う。</td><td>○著作権フリーの図書館内の写真を掲示し、思考の手助けとする。</td></tr>
<tr><td rowspan="4">展開</td><td>○昔の図書館の特徴について知る。
・貸し出しはなかった。
・勉強する場所。
・学生や社会人が多く、女性や子供は少ない。
・少し敷居の高い場所。</td><td>○貸し出しや移動図書館が日野市で始まり、全国に広がっていったことを簡単に紹介し、図書館の情報システムの学習への意欲を喚起する。</td></tr>
<tr><td colspan="2">図書館の利用を便利にするために、どんなしくみがあるのだろう。</td></tr>
<tr><td>○本はどのようにして借りるのか話し合う。
・図書館受付
・ひまわり号
○借りたい本をどうやって探すのか話し合う。
・図書館で、書庫を見て探す。
・司書の方に聞く。
・検索機を使う。
・パソコンで調べる。
・家のパソコンから予約をしたことがある。
○ウエブサイトを実際に操作する。</td><td>○検索機の写真を提示。
○インターネットの検索画面を提示。
○回線や電波などを通して、たくさんの情報をやり取りするしくみづくりが進められていることをおさえる。
○情報ネットワークとは何かをおさえる。（何のため？）</td></tr>
<tr><td colspan="2">日野市には、図書館以外に
どんな情報ネットワークがあるのか調べよう。</td></tr>
<tr><td>まとめ</td><td>○高齢者見守り、防災、不審者、医療の中から学習問題を決める。</td><td>○情報ネットワークへの関心が高まったか。（関・意）
○暮らしの中の情報ネットワーク活用について調べる学習問題を考え、表現している。（思）</td></tr>
</table>

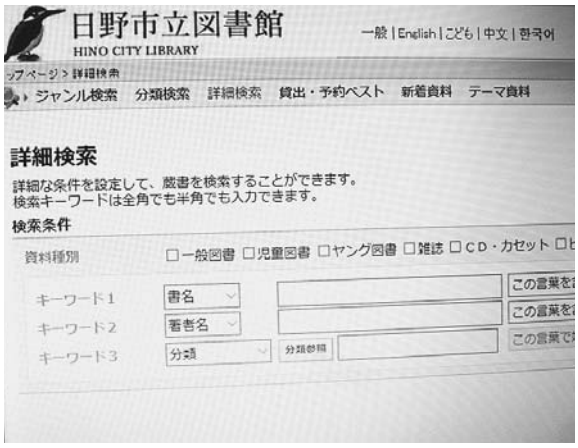
４．成果と課題

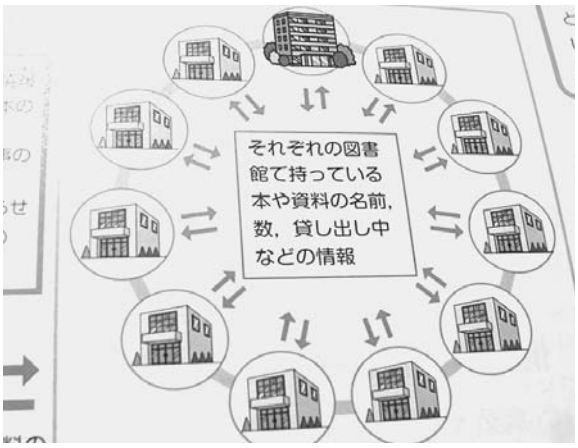
（１）成果

・インターネットを活用すれば、貸し出し回数の多い本の情報を受け取ることができ、借りたい本も、予約申し込みという情報発信をすることで借りやすくなり、情報ネットワークの利便性、双方向性に気付かせることができた。

・公共機関・自治体が、暮らしの安全を考え、情報ネットワークを介して人と人との結びつきを大切に考えていることを捉えさせることができた

・公共機関だけではなく、生活に密着した企業や商店などの情報ネットワークを積極的に活用していこうとする意欲を高めることができた。





情報ネットワークでつながっている市立図書館のウェブサイトの実際の画面を操作しながら学習を進めた。

興味のある本が、どの図書館に何冊あり、何冊貸し出されているかが瞬時に分かることは勿論、借りたい本の予約、図書館に無い本のリクエストをすることもできるため、効率よくサービスが受けられる便利さを実感させることができた。

なお、本学級児童の半数以上に利用実績があった。

市内各地の図書館は、学校や家庭のパソコンからも情報をやりとりすることができ、物理的に離れた場所も情報ネットワークによってつながっていることを捉えさせた。

（２）課題

・年間指導計画を緻密に立てゲストティーチャーとして中央図書館館長を招いたり、消防署などの見学の予定を立てるなど生の声を聞いたり、実際に体験したりする活動が必要である。

・話し合い活動の時間を十分に確保したい。

（日野第四小学校　堀　裕行）

（５）日野市の農業調べ

（第３学年　社会科）

１．教材化の意図

３年生になり、１学期は日野市の様子について白地図を使って学んだ。また、総合的な学習の時間で実際に地域をまわり、交番やお店、公共機関などさまざまな職種の施設を訪ね、見たり聞いたりしたことを新聞にまとめる活動を行った。２学期は日野市にみられる「生産」や「販売」の仕事について学ぶ。農家の方や栄養士にお話を伺ったり、印刷工場やスーパーマーケットを訪ねたりする活動を行う。そして、どのような仕事をしているのか、関わっている人たちがどのような工夫をしているのかを新聞にまとめ、友だちに発信する活動をする。特に、日野市の農業は、地元で採れたものを地元で消費することを意味する「地産地消」活動が盛んである。その一環として、学校給食に地元産の農作物を使うことが進められている。また、潤徳小学校の近くには、農産物直売所などの地元野菜に触れられる施設があり、子供達が農業について学ぶ環境が整っている。このような環境を生かした学習を通して、自分たちの住んでいる地域の人々の仕事について関心をもち、地域社会を大切にしようとする心を育てていきたい。

２　指導計画

（１）単元のねらい

○農家の人々の実際に関心をもち、自ら働きかけて意欲的に調べようとする。

○農家の人々は、自然条件・社会条件を生かして生産の工夫をしていることを考え、言語などで表現することができる。

○見学やインタビューをはじめとした体験活動を通して、農家の人の様子を具体的に観察・調査し、情報を読み取ることができる。

○農家の仕事をする人々は、生産の工夫や努力を続けていることが分かる。

（２）単元の指導計画（全９時間）

	活動内容	・資料　○評価
つかむ（２時間）	○給食に多くの農作物が使われていることを知る。 ・ある日の給食調べ（どんな野菜や果物が使われているか）をして、給食で使われている農作物を調べる。	・身の回りの写真から日野市の田畑・牛・卵・工場の様子を伝える。（牛：百草ファーム）
	・身近な畑の様子を思い返し、日野市で作られている農作物を予想する。日野市で作られている農作物を知り、学習問題を作る。	○日野市の農作物について関心をもち、学習問題や予想を考え表現している。
	なぜ給食に日野市の農作物を使っているのだろうか。	

調べる（5時間）	○給食で使われている農作物について調べる。 ・農家の方に聞く、農協、畑を見に行くなど問題解決の方法を確認する。 ・直売所やＪＡで売られている野菜を調べる。 ・日野市のホームページを見る。	・ＨＰ日野の特産農産物、こども農業新聞 ・日野市観光協会日野を味わう ○問題解決の方法を考え、日野市の農作物を調べることができる。
	・市のどこでどのような農作物を作っているのかを確かめ、白地図に絵カードを貼り分布図にまとめる。	・HINO Fruit & Vegetable MAP ・副読本P36～39 ・白地図
	・給食で使われている日野市の農作物について、栄養士から話を聞く。	○日野市の野菜や果物が給食に多く使われていることを理解することができる。
	・農家の人から、農産物を作るための仕事内容や工夫、日野市の野菜を食べる良さなどについて話を聞く。 ★地産地消の良さ（生産者の顔が見えるところや、新鮮な食材を手に入れられるところなど）を中心に学べるようにする。	○農家の仕事をする人々は、生産の工夫や努力を続けていることが分かる。 ★地産地消の良さ（生産者の顔が見えるところや、新鮮な食材を手に入れられるところなど）を中心に学べるようにする。
	・農家の方からうかがった農事暦等から、一年を通した仕事の内容や働く人の工夫や努力をまとめる（農産物直売所への見学もしているので、そこで聞いた話なども含める）。	○農家の人の様子を具体的に観察・調査し、情報を読み取りまとめることができる。
まとめる（2時間）	○学習したことをまとめる。 ・地産地消、日野産を食べようＰＲポスターを作る。 例）・新聞作り　・ふるさとボックス ・野菜作り名人すごろく ・地産地消、日野産を食べようＰＲポスター	★作り手の工夫や努力、環境との戦い、安全や新鮮について触れられるようにする。

３　本時の指導

（１）本時のねらい

栄養士から話を聞き、日野市の野菜や果物が給食に多く使われていることや、地産地消の良さについて理解することができる。

（２）本時の展開（５/９時）

	主な学習活動・内容	・指導上の留意点　〇評価
導入	〇今まで調べてきたこと（日野市で作られている野菜）について振り返る。	・日野市では多くの農作物が作られていることを、白地図等で視覚的に意識させる。
展開	給食で使っている日野市の農作物について知ろう。	
	〇ある日の給食を見て、気付いたことを話し合う。 ・どの食材が日野産かな？ ・日野産の野菜がどれくらい使われているかな？	〇前時までに学んだことを想起し、日野市の農作物について考えることができる。（発言）
	〇栄養士からお話を聞く。 ・潤徳小学校の給食で使われている農作物について。 ・季節ごとに使用する農作物について。 ・日野産野菜や果物の名前について。 ・地産地消について。	・パワーポイント等で視覚的に学べるようにする。 〇給食に使われている農作物に関心をもち、意欲的に調べようとする。（発言・ワークシート）
	〇栄養士にインタビューする。 ・日野産の農作物を給食に使う理由。 ・どれくらいの農家から農作物を仕入れているのか。	・地産地消の良さを学べるような質問を考えさせる。
まとめ	〇栄養士から聞いて分かったことを発表する。	・潤徳小学校の給食は、日野市の農作物が多く使われていることや、地産地消の良さを理解させる。

４．活動の様子

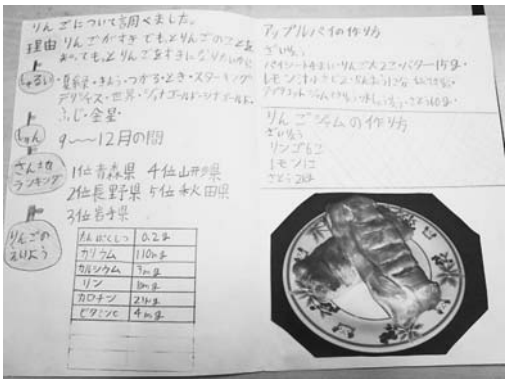
〇給食調べ

○栄養士の授業

日野市の農産物がこんなにたくさん給食に使われているなんて驚いた！

地産地消をしているから、私たちが食べている野菜は、新鮮で安心だね。

○地産地消、日野産を食べようＰＲポスター作り



総合では、日野産の野菜を調べました。

４．成果と課題

（１）成果

○毎日食べている給食を導入に使ったことによって、一人一人が自分と関わりがあることとして捉え、学習することができた。

○初めてパソコンを使って調べ学習を行ったので、児童が興味関心をもって学習に取り組むことができた。

○学習のまとめでは、日野市の農家の人の工夫や努力、願いや農業の特色を考えさせ、ポスターを作成させた。「日野市の野菜をこれからも食べたい」「これからは給食を残さず食べたい」「おいしい野菜を作るのは簡単ではないことが分かった」等、今後につながる感想を聞くことができた。

○農産物直売所に、見学やインタビューに行くことができた。

（２）課題

○農家に直接見学に行くことができれば、より実感を伴って学習することができたと思う。

（潤徳小学校　高見　彩可）

（６）浅川ガイドブックをつくろう

（第３学年　生きぬく科）

１．教材化の意図

本校では、全学年において総合的な学習の時間を「生きぬく科」として防災教育を行っている。自然災害について学び、自分の身を守り、生きぬくにはどうすればよいのかを学習をしている。

本学年の児童は、「生きぬく科」の学習で「平山の地形」「浅川の四季」について実際に現地に行って調べ学習を行っている。「平山の地形」では、平山の地形はどのような特徴があり、その地形で大雨や地震が起こったらどのような災害が起こるのか地形を読み取り、「浅川の四季」では、浅川には四季折々、豊かな自然があると同時に危険なこともあることを知りまとめている。また、浅川に実際に入って魚をつかまえる「浅川ガサガサ体験」や、川辺にいる虫を捕る「虫取り体験」などの体験を行うことで自然と親しむ体験も行っている。

本単元では、豊かな自然について体験したことや、浅川で起こる災害について、ガイドブックにまとめることにより、浅川には、豊かな自然と河川の氾濫などの危険という両方の側面があるということに気づかせる。そして、自分たちの近くにある浅川について深く知り、自然に親しみ、自然を大切に守り続けていく心を育てていく。

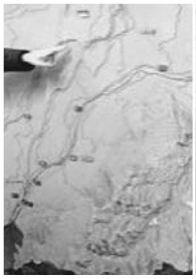
２．指導計画

（１）単元のねらい

・豊かな自然について（虫・川・草木など）図鑑に表現することができる。

・自然災害が起きた時の危険な場所を地形から読み取り、図鑑に表現することができる。

（２）単元の指導計画（全18時間）

過程	ねらい	主な学習活動・学習内容	資料　評価
つかむ　３時間	○浅川の四季の様子について話し合い、季節によって自然の姿が違うことに気付くことができる。 ○浅川体験の流れを知り、学習計画を立てる。	・浅川にはどのような自然（虫・川・草木など）があり、どのような地形なのか意見を出し合う。 ・季節によって浅川はどのように変化するのか意見を出し合う。 	・ワークシート①（春夏秋冬の浅川のようすについて） ・ワークシート②（体験の計画） ・ワークシート③（調べたい自然）

	○自分が何について調べ、体験したいか選択する。	・単元の学習の流れを知る。 ・体験の計画にあたって、大切なことを話し合う。 ・自分が何を調べたいのか考え選択する。	
追究する 8時間	○浅川の自然について調べる。	・実際に浅川へ行き、生き物をとったり、画像や動画を撮影したりする。 	・タブレットＰＣ ・タブレットＰＣ
	○浅川の災害が起こりそうな場所について調べる。	・生きぬく科で学んだ知識を生かしながら災害が起こりそうな場所の画像や動画を撮影する。 	
	○浅川の豊かな自然と災害について考える。	・グループでどのようなガイドブックを作るのか考える。	
まとめる 7時間	○タブレットに、調べたことをまとめる。	・どのようにガイドブックにまとめるのかグループで話し合う。 ・自然と災害について関連づけて考えるようにする。	・タブレットＰＣ
	○浅川ガイドブックを発表する。	・各グループで、「浅川ガイドブック」発表会を行う。 ・他のグループの発表を見て、よかったことをつたえる。 ・学習を終えて、自然のよさと危険について考える。	ワークシート④

３．本時の学習

<table>
<tr><td>学年</td><td colspan="4">第３学年</td></tr>
<tr><td>領域</td><td colspan="4">地震・大雨・自然環境</td></tr>
<tr><td>単元名</td><td colspan="2">浅川ガイドブック</td><td>本時/全時</td><td>10/18</td></tr>
<tr><td>タイトル</td><td colspan="4">浅川ガイドブックを作ろう</td></tr>
<tr><td>達成目標</td><td colspan="4">豊かな自然と自然災害が起きた時の危険な場所をガイドブックに表現することができる。</td></tr>
<tr><td>実践力
（態度）</td><td colspan="4">地域にある豊かな自然と災害による危険を関連付けてマップとして表現する。
（１：自然の恵みを大切にする）（５：防災に努める）</td></tr>
<tr><td>知識
（内容）</td><td colspan="4">①平山地域には、様々な生き物がいる。（イ：基礎知識）
②平山地域で地震や大雨などの災害が起きた時に危ない所と安全な所がある。
（ハ：防災知識）</td></tr>
<tr><td>能力</td><td colspan="4">自然の恵みと自然災害による危険を関係付け、マップを使って整理することができる。
（２：知識を獲得し構造化する。）</td></tr>
<tr><td>学習活動</td><td colspan="4">「浅川ガイドブックが“平山地域の豊かな自然”と“災害が起こった時の危険”の両面が掲載されたものになっているか」という視点で、友達からの助言を参考にしながら作成途中の浅川ガイドブックを見直す。</td></tr>
<tr><td>前提条件
（既習・経験事項）</td><td colspan="4">①浅川の水の流れや川の中の様子（ガサガサ体験）
②浅川のほとりの植物と昆虫
③浅川の四季
④地震が起きると建物が壊れたり火災が起きたりすることがある。
⑤地震が起きると、土砂崩れが起きることがある。
⑥大雨が降ると河川が増水し、堤防が決壊して水害が起こることがある。
⑦大雨が降ると、山や崖が崩れたり土石流が発生したり地すべりなどの土砂災害が起こることがある。
⑧大雨が降ると、地下道に水が流れ込むことがある。
⑨大雨や雷のときは、頑丈な建物に避難するとよい。</td></tr>
<tr><td>指導の流れ</td><td>学習活動と指導のポイント
（課題・発問・教材）</td><td>予想される児童の反応
（◎：ゴール）</td><td>知識</td><td>能力</td></tr>
<tr><td>step1</td><td>課題：グループのテーマごとにガイドブックを作成する。
発問：担当のテーマごとにシートを作ろう。
教材：スタディネット（児童が作った平山マップ、写真の一部）</td><td>・春は生き物がたくさんいて、花がたくさん咲いていたな。
・冬は植物が枯れていたが、さぎなどの鳥がいたな。</td><td>①
②</td><td></td></tr>
</table>

step2	課題：グループで話し合い、自分の班のガイドブックを改善する。 発問：友達からのアドバイスを参考にして、自分のシートを見直そう。 教材：スタディネット（児童が作った平山マップ、写真の一部）	◎ここは、本当に自然の良さだけでいいのか。危険はないのか。	① ②	○
step3	課題：各班で作成したシートを全体で発表する。 発問：今日できたガイドブックをもう一度よく見てみましょう。自分たちが作った場所だけでなく、他の場所も見ましょう。そして、気付いたことや考えたことを書きましょう。	◎自分のガイドブックには、自然の良さしかかいていないので、災害時の危険がないかもう一度考えてみよう。 ◎もう少し浅川の良さが伝わるように説明をくわしくしよう。	① ②	○
step4	課題：全体で話し合ったことをもとに振り返りをする。 発問：全体で話し合ったことをもとにグループで話し合いをしましょう。 教材：スタディネット（児童が作った平山マップ、写真の一部）	◎同じテーマで調べていても、自然の良さと災害の危険の両方があるということが分かった。 ◎他のグループの表現の仕方が分かりやすかったので、自分のグループも工夫したい。	① ②	○

４．子供たちの感想

・浅川には色々な生き物がいることが分かった。
・季節によって景色が全然違うことが分かった。
・浅川は自然がたくさんあるし、危険な場所についても知ることができた。
・豊かな自然を大事にしていきたいと思った。

５．成果と課題

（１）成果

・普段何気なく接している浅川の自然について、季節ごとの姿の違いについて気付くことができた。
・実際に浅川に行き、自然と触れ合うことでより興味関心が高まった。
・生き物を大事にし、お世話をする児童が増えた。
・浅川には、豊かな自然と河川の氾濫などの危険という両方の側面があることを子供たちが知ることができた。

（２）課題

・体験を多くしたので、校外学習の時間を年間を通して確保する必要がある。
・グループによって学習の進度に違いが出てしまった。

（平山小学校　堀内　正人）

（７）新選組のふるさと日野　～土方歳三の生き様に迫る～

（第６学年　社会科）

１．教材化の意図

日野市には、「新選組のふるさと」というキャッチフレーズがある。それは、土方歳三の出生の地であることが大きい。土方歳三は、1835年に現・東京都日野市石田に生まれ、新選組の副長として、幕末に活躍した偉人であるといわれている。その生き様には、武士としての誇りをもち、信念を貫く武士道の精神が強く表れており、歴史好きな人から多く支持を集めている人物である。本単元では、そのような土方歳三の生き様や功績、明治以降に日野市に与えた影響などを調べ、日野市に対する誇りと愛着をもつことができるようにしていく。第六学年の社会科「新しい時代の幕あけ」では、「幕末に活躍した偉人調べ」の学習がある。その学習に位置づけた郷土教育の実践である。

２．単元の指導計画

（１）土方歳三の生涯やその生き方について調べ、出身地である日野について誇りと愛着をもつ。

（２）単元指導計画（全８時間）

過程	時	ねらい	○主な活動・学習内容	・資料　○評価　＊備考
つかむ・学習問題作り	①（本時）	○土方歳三や新選組について知り、学習問題を考える。	○好きな歴史上の偉人について発表する。 ○土方歳三の写真を見て、知っていることを発表する。 ○新選組についての映像を見て、疑問を出し、学習問題をつくる。	・土方歳三の写真 ・土方歳三の刀 ・新選組の羽織 ・ヒストリアNHK ○土方歳三や新選組について関心をもち、学習問題や予想、学習計画を考え表現している。
		土方歳三とは、どのような人物だったのだろう。		
調べる	②	「鬼の副長」と呼ばれた土方歳三について調べ、その人柄や生きざまについて考える。	○好きな幕末の偉人ランキングについて予想する。 ○年表を読み取り、「鬼の副長」という呼び名の理由を考える。 ○土方歳三の考え方について自分の考えをもつ。	・好きな幕末の偉人ランキング（土方歳三第４位）（インターネット） ・新選組の内部に関わる年表 ・局中法度 ＊資料から、幕府につくすために「鬼」のように厳しくしていた生き様に気づくことができるようにする。 ○土方歳三が新選組の規律のために行動している意味について考え適切に表現している。
	③	「箱館戦争」で、最後まで新政府軍と戦った土方歳三の生き様について考える。	○「８月18日の政変」から「箱館戦争」までの新選組の立場を知る。 ○朝敵となり、戦況が悪くなっても最後まで戦った土方歳三について考える。	・幕府、会津藩、新選組、朝廷、長州藩、薩摩藩の関係図 ○最後まで自分の信念を貫き、武士道の精神を大切にした土方歳三について自分の考えをもつ。

	④	「朝敵」となった土方歳三が石碑になった経緯を調べ、その当時の人々の思いについて理解する。	○明治になって、石碑が建てられた経緯について理解する。 ○石碑の建立を願った日野市民の願いについて話し合う。	・高幡不動尊にある土方歳三の銅像と石碑 ○市民の声によって、銅像や石碑が建てられた意味について考えをもつ。
	⑤ ⑥	「新選組」を大切にする日野市の取り組みや、そこに関わっている人々の願いについて調べる。	○「日野新選組まつり」について知っていることを発表する。 ○新選組に関わる日野市の取り組みや文化遺産について調べる。	・ひのっ子新選組探検隊 ○日野市は、土方歳三の思いを大切にし、様々な取り組みをしていることを理解する。
まとめる	⑦ ⑧	土方歳三の生き様や功績を他学年や家族に発信する新聞をつくる。	○これまでの学習したことを新聞にまとめる。	・ひのっ子新選組探検隊 ・その他図書室やインターネットの資料 ○これまで学習したことを取り入れた作品にまとめている。 ○土方歳三の生き様や功績に関心をもち、その素晴らしさに気づき誇りや愛着をもって取り組んでいる。

３．本時の指導

（１）本時のねらい

土方歳三や新選組について関心をもち、学習問題や予想、学習計画を考え表現している。

（２）本時の展開

	主な学習活動	資料（・）支援（☆）評価（○）
導入	○好きな歴史上の偉人について発表する。 ・今まで学習した中で、好きになった偉人はいますか。また、その理由を話し合いましょう。 →聖徳太子です。なぜなら～ →織田信長です。なぜなら～ ○土方歳三の写真を見て、知っていることを発表する。 ・日野市にも、すばらしい偉人がいます。土方歳三について知っていることはありますか。 →新選組で活躍した人。 →剣の達人。	・土方歳三の写真 ・土方歳三の刀 ・新選組の羽織 ☆具体物を用い、興味を惹きつけたり、想像力を広げたりできるようにする。
展開	○新選組についての映像を見て、疑問を出し、学習問題をつくる。 ・映像から分かったこと話し合いましょう。 →幕末に活躍した人だ。 →農民出身なのに、武士の誇りをもって、戦い抜いた人だ。	・ヒストリアNHK

	・土方歳三について疑問を出し合い、学習問題をつくりましょう。 主なカテゴリー 生き方・考え方について　新選組について 功績について　現代への影響について 学習問題 土方歳三とは、どのような人物だったのだろう。	○土方歳三や新選組について関心をもち、学習問題や予想、学習計画を考え表現している。 ☆短冊に書き、一人一人が自分の考えをもてるようにするとともに、黒板にカテゴリーごとに分類し、学習計画を立てることができるようにする。
まとめ	○学習問題から学習計画を立て、自分なりの課題を決める。	

（３）本時のまとめ

多くの児童は、土方歳三の名前を知っており、興味をもって取り組むことができた。また、具体物や映像資料を使うことで、土方歳三について効果的に学習することができ、「さらに詳しく調べたい」という気持ちをもたせることができた。学習問題づくりでは、短冊を使用することでテーマごとに分類することができ、学習の見通しを持たせることができた。

４．具体的な手立て

【ひのっ子新選組探検隊の活用】＊第４学年配布

土方歳三や新選組を調べる資料として、第４学年に配布されている「ひのっ子新選組探検隊」を活用した。詳しく分かりやすいようにまとめられているので、興味をもった児童にはとてもよい資料だった。しかし、理解に時間がかかる子にとっては、まだ難しい内容でもあった。教材の焦点化を図り、土方歳三の特徴的な出来事に興味をもたせるよう工夫もしたが、さらなる教材開発が必要である。また、「新選組のふるさと歴史館」や「日野宿」に見学に行ったり、ゲストティーチャーを招いたりするなど外部と連携を図り、体験活動を取り入れるとよかった。

【ひのっ子新選組探検隊】

【具体物の利用】

児童の興味を惹くために、新選組の羽織と土方歳三の刀のレプリカを使った。土方歳三の刀は、「和泉守兼定」（いずみのかみかねさだ）といい人気が高い。その値段から土方歳三について考えを広げたり、実際に触れて「誠」の精神について思いを巡らせたりすることができた。児童の反応はとてもよく、休み時間にも試着し楽しんでいた。

購入

＊新選組の羽織

＊土方歳三の刀のレプリカ

【新選組の羽織　上】
【土方歳三の刀（レプリカ）下】

【新聞づくり】

まとめの活動として、「土方歳三を紹介する新聞をつくろう」を取り入れた。図書室やインターネットで、資料を探す時間も設定したことで、新聞の見出しには、「池田屋事件」や「戊辰戦争」、「羽織に書かれた誠の意味」や「新選組の規則」などの学習していない内容もあり、興味を広げて調べていたことがうかがえた。また、インタビュー形式やクイズ、４コマ漫画などを取り入れて意欲的に取り組んでいた。

「ひのっ子新選組探検隊」が第４学年に配布されていることを考慮に入れ、作った新聞を４年生に介するなどして、交流することができるとよいと感じた。

【児童の作った新聞】

５．成果と課題

（１）成果

・名前を知っているが土方歳三のことはよくわからないという実態から、具体物や映像資料を使って上手に興味を惹きつけ、児童に意欲的に取り組ませることができた。土方歳三の生き様や日野市との関わりなどを深く学習することで、意欲を継続させて学習させることができた。

・「土方歳三を紹介する新聞をつくろう」という発信を目的としたまとめの活動を取り入れることで、日野市民としての誇りと愛情を少しもつことができた。

（２）課題

・百姓から武士を目ざした苦労や新選組の立場を理解するためには、当時の社会背景を捉えることが大切であるが、複雑であり理解が難しい子が見られた。資料や発問を工夫し、端的に土方歳三の生き様や功績を捉えることができるようにしていくことが大切であった。

・第５時からは、「新選組」を大切にする日野市の取り組みや、そこに携わっている人々の願いについて調べる活動を行ったが、新選組に関わる施設や行事を調べるだけとなり、そこに携わっている人々の願いにまで、考えを深めることは難しかった。

６．児童の感想

・土方歳三は、日野市生まれで箱館で戦死し、近藤勇と一緒に新選組を引っ張った人だ。最後まで武士らしく戦い抜き、意志が強くかっこいいと思った。

・新選組や土方歳三を調べて、日野市には深い歴史があることが分かった。日野市のよさを受け継ぎ、世界中の人に発信し伝統を作りたいです。

・土方歳三は少しこわいところもあるけど、たくさんの事件を解決している。また、たくさんの名言を残し、新選組の副長として、数々の武名を残しているところがすごいと思った。

・土方さんの勇気ある行動と「誠」への気持ちがすごいなと思いました。私も土方さんのように誰かに尊敬される人になりたいです。

・ぼくは、土方歳三の人生を調べて、なれるのなら土方歳三になってみたいなと思いました。新選組の人物は、他にもいろいろな人がいるので、調べてみたいです。

（滝合小学校　関根　夕紀）

（８）「水のきれいな町　―玉川上水の学習を生かして―」

（第４学年　社会科）

１．教材化の意図

本学年は、社会科「郷土の発展に尽くした人々」の学習において、「玉川兄弟と玉川上水」について学習した。また、本年度は学習発表会で「玉川兄弟と玉川上水」について学んだことを劇形式で発表した。日野市は、かつて「多摩の米蔵」といわれるほど米作りが盛んであった。それも、市内には多摩川・浅川から水を引く用水路が網目のように流れ、日野市の農業を支えてきたからである。また、日野市の子供たちの生活と用水は密接な関係である。まちを歩けば、至る所に清らかな用水が流れている。用水で見られる様々な生物や植物に触れ成長していく。そこで、「わたしたちのまち日野」では、どのように用水が作られ、それによって日野の人々の生活はどのように変化したのか、「玉川兄弟と玉川上水」の学習を生かしながら学んでもらいたい。

２．単元の指導計画

過程	時	ねらい	○主な活動	・資料○評価
つかむ・学習問題作り	①本時	・「わたしたちのまち日野」では、どのようにして用水が作られ、どのように用水が引かれ、人々の生活を支えたのか考える。	○「多摩の米蔵」という文字を見せ、なぜ日野市がそう呼ばれるようになったのか話し合う。 ○人々の生活がどのように変わったかを調べる学習問題をつくる。 ・日野市の用水の写真を見る。 ○学習問題を作る。	・日野市の用水の写真 ○日野市にある用水に関心をもち、つくられた理由や当時の人々の気持ちを予想しようとしている。
調べる	②③	・七小の近くにある日野用水を歩いて見学しに行く。（宝泉寺前、日野駅前、池堀公園） ・工事の苦労について調べ、その当時の人の思いを想像する。	○用水を見学して考えたことや気が付いたことをノートにまとめる。 ○用水によって日野の人々の生活がどのように変化したのか話し合う。	七小の周りにある日野用水の分水 【宝泉寺前の用水】 ○当時の人の思いを想像している。

まとめる	④	・玉川上水よりも前に、日野用水はでき日野市の発展に貢献していたことを知る。 ・日野市は用水を使い米作りが発展していたことを知る。（多摩の米蔵）	○学習問題に対するまとめを班で話し合う。	・日野市の用水の写真（北条氏照の領国経営と関係あり） ○佐藤隼人の働きと、日野のまちの人々の生活の向上を玉川上水の学習と関連させながら考え、まとめを書いている。 ○これまでの学習と関連させて考えている。

３．本時の指導

（１）本時のねらい

「わたしたちのまち日野」では、どのようにして用水が作られ、人々の生活を支えたのか考える。

	主な学習活動	資料（・）評価（○）
導入	・玉川兄弟と玉川上水について振り返る。 ・自分たちのまちにたくさんの用水があることに気付かせる。	・玉川兄弟の像 ・用水路、池堀公園
展開	・「多摩の米蔵」という文字を見せ、なぜ日野市がそう呼ばれるようになったのか話し合う。 ・日野市内にある用水路の写真を見せる。 ・水と親しみやすい地域であることを具体的に理解させる。 ・日野用水に絞って、宝泉寺前や日野駅前、池堀公園に触れる。 ・どのようにして、日野市の発展に尽くしたか考える。 【日野市との比較】 ・玉川兄弟に当たる人…佐藤隼人 佐藤隼人は日野郷を豊かな土地とするために、日野用水の開削を行った。 ・羽村の取水堰…八王子市平町の平堰 ・工事の様子…北条氏照から与えられた罪人を使った。 日野宿百姓が人足として給金をもらって働いた。	○これまでの学習と関連させながら、日野用水について理解する。 【平堰　－日野用水の源】
まとめ	・人々の生活がどのように変わったかを調べる学習問題をつくる。 ・学習計画を話し合う。	○玉川上水の学習を生かして、学習問題を作っている。

４．成果と課題

（１）成果

・玉川上水の学習を生かして、学習に取り組むことができた。

・調べ学習を通して、児童が地域に対する愛着がもてるようになった。

・日野用水の実態に触れ、学区が豊かな水に恵まれたところであることが理解できた。

（２）課題

・今回は４学年ということもあり、時代や歴史についてはあまり深く扱わず、地域の発展に尽くした先人の具体的事例の学習として行った。

・日野用水については史実が詳しくわかっておらず推測することが多かった。

【宝泉寺前】

七小から一番近くにある用水である。

七小から駅に向かって坂道を降りていくと確認できる。

【日野駅前】

日野駅の地下に用水が続いていることを想像できる。

（山下掘）

【池掘公園】

池掘についての説明看板あり。

水路の合流地点では、大雨になると水が溜まり池のようになったことから「池掘」と呼ばれるようになった。

（日野第七小学校　栄森　めぐみ）

（９）「日野用水について」

（第５学年　総合的な学習の時間）

１．教材化の意図

日野用水は豊田用水、向島用水、平山用水等と共に日野市をくまなく巡る用水路の一つである。東光寺小学校の周辺にも上堰・中堰・下堰が流れ、今も田畑に利用されている。また、学校の近くには、用水路を利用したよそう森公園や水車公園もあり子供たちの遊び場となっている。そのような地域と密着し、親しみ深い日野用水に改めて目を向け、その成り立ちや生活に触れながら、そこに住む生き物などについて調べ関心を深めさせたい。

また、ふるさとの意識を育てるために５年生では、１年を通して学校田での米作りに取り組んでいる。地域の農家の方の協力のもと、田おこしの様子や苗の観察、田植え、網掛け、稲刈り、収穫祭などの活動をしている。そこで、米作りと切っても切れないのが、用水路である。東光寺小学校周辺の地域では、古くからの地元の農家の方も多く、本校の児童の親族が地元で農家を営んでいる。東光寺小学校の児童にとって身近で親しみ深い日野用水を調べ学習することで、その良さに気付き、さらに大切にしようという意識が育つと考えられる。そのような日野用水を昔から今に伝え守ってきた人々を誇りに思い、この地域の良さを次の世代へつなげていこうという地域を愛する心が育ってほしいと考えている。

２．指導計画

（１）単元のねらい

・「日野用水」がわたしたちのくらしの中で身近で、４年生に分かりやすく伝わるように、資料の掲示を工夫したり、組み立てを考えたりして話すことができる。

・友達と自分の考えを照らし合わせ、アドバイスを生かしてプレゼンテーションを組み立てることができる。

（２）単元の指導計画（全18時間）

	時	主な学習内容	・指導上の留意点　〇評価
つかむ	1・2・3	・日野用水の見学をして大まかな場所や特徴をとらえ、興味・関心をもつ。 ・学校の近くを流れる日野用水の名称や取り入れ口について知ったり見学したりする。	・自分が調べてみたい日野用水について具体的なイメージをもたせる。 〇自分の課題をもつことができる。
		日野の用水は、どのように活用されているのか。	
調べる	6・7・8（本時）	・米作りの経験と地域を観察したことをもとに、課題設定をする。 ・課題別グループに分かれて、それぞれ実地調査をする。	・日野用水のいろいろな資料を用意する。 ・ワークシートを活用し、活動の見通しをもたせる。 〇調査計画をたてることができる。

	9・10	・自分の発表に適した話の組み立て方や資料の形式を選ぶ。 ・調査活動の結果から自分の考えを整理し、発表メモを作る。	・課題別グループ内で発表についての意志の疎通をはかり、見通しをもって資料づくりの計画が立てられるようにする。 ○発表メモを作ることができる。
	11・12	・発表に必要な材料や調査結果を整理して資料を作成する。	・発表のために話形やポイントとなる言葉をおさえる。 ○調査結果を整理して、資料をさくせいすることができる。
	13	・発表メモをもとに、プレゼンテーションの練習をする。	・発表の内容についてのアドバイスをするように確認する。 ○自分の考えを分かりやすく伝えている。
	14・15	・発表メモをもとに、プレゼンテーションの練習をする。	・友達の良いところを見つける。 ・自分の考えと照らし合わせ意見交換する。 ○友達の発表を聞いて、自分の考えを深めることができる。
	16	感想カードをもとに、プレゼンテーションのしかたや資料を見直し最終調整をする。	・グループでまとまりのあるプレゼンテーションができるようにする。 ○発表を練り直すことができる。
	17	・発表をする。	○４年生に分かるように発表メモや資料をもとに、適切な言葉遣いでプレゼンテーションができる。
まとめる	18	・発表メモや資料、アドバイスカード、感想カードを整理し、活動のまとめをする。	・日野用水の調べ学習をして気づいたことや発表の時に工夫したことをまとめる。 ○日野用水の調べ学習について振り返り、まとめができる。

３．本時の指導

（１）本時のねらい

米作りの経験や地域を観察した様子からグループごとの課題を明確にする。

（２）本時の展開（６／18）

	主な学習活動	資料（・）評価（○）
導入	稲作体験と用水との関係を考えながら学習課題を考える。	現在の用水から昔の日野用水のことを考える。

展開	米作りの体験や学区を見学したことをもとに課題をまとめよう	
	上堰用水と田植えの関係をまとめる。 ・６月頃 ・地域の農家の人の協力 よそう森公園とお米の収穫について考える。 ・生活していく上でお米の取れ高がとても大切であったことを知る。 ・よそう森から見た田を思い出し取れ高を考える。	・日野用水の地図 ○日野用水から多くの分水が分かれているか知る。 ・よそう森の写真 ・見学した経験 ○米の収穫が大切であったことをよそう森の実態から知る。
まとめ	米作り体験を通して用水がどれだけ大切なものであったか理解する。	・田植えから収穫までの経験。 ○自分たちの経験を踏まえて学習課題づくりができたか。

４．学習の様子

水都日野　水辺のある風景日野50選　プロジェクト「水辺の案内オブジェづくり」の資料も参考にしてまとめをしました。

５．資料

東光寺小学校の近辺の様子

○水車堀公園
　東光寺小学校のすぐ近くに水車があります。水車の使い方について調べました。

○よそう森公園
　公園内に田んぼが作られています。５年生は稲刈りの学習、１年生と２年生は生き物の学習をしています。

６．成果と課題

（１）成果

・自分でテーマを決めて学ぶことで、意欲的に取り組むことができた。
・今回の学習を通して、改めて日野市の自然の豊かな環境について学ぶことができた。
・学習のまとめでは、これからどのように自然に関わっていくか考えさせた。「これから日野の自然を守っていきたい」「次の学年に伝えたい」等、今後に繋がる感想が多く出た。

（２）課題

・調べ学習の際、資料が限られていたり、書籍を読んで理解したりするのが困難であった。また、課題別の学習では、生き物に目が向く児童が多かった。歴史や地理に目を向けられるように指導していく必要があった。今後も活動が継続していくよう、総合的な学習の時間を中心とした学習の系統性を検討していく。

７．参考文献

平成27年度「郷土日野」指導事例集第11集（日野市立教育センター郷土教育推進研究委員会）
平成21年度総合的な学習の時間学習指導案　日野市立東光寺小学校　福里　佳代教諭
平成28年度水都日野　水辺のある風景日野50選　プロジェクト‘水辺の案内オブジェづくり’

（東光寺小学校　三木　浩行）

（10）郷土の発展に尽くした人　～多摩動物公園初代園長　林寿郎～

（第４学年　社会科）

１．教材化の意図

多摩動物公園は、当時の七生村の願いを受け、林寿郎をはじめとした様々な人々の工夫や努力、苦心の結果開園し、今日まで日野市のみならず東京都民に親しまれている。

夢が丘小学校には、学校行事の一つに全校遠足があり、毎年多摩動物公園を訪れている。また、多摩動物公園は校区内に位置している。そのため、休日に家族や親せき、友達同士で多摩動物公園にいくことも多い。子供たちにとって、多摩動物公園は身近な施設であるといえる。しかし、身近な存在であることから、開園初日に25万人もの来場者が訪れたことや、現在では国内有数の動物園に発展したことなどは知らない。

慣れ親しんでいる多摩動物公園の背景にある、林寿郎の思いや当時の七生村の願い、京王電鉄の協力などに触れ、日野市の発展に尽くした人々の思いや多摩動物公園の果たした役割について考えさせることで、児童が、地域に対する誇りや愛情を育めるのではないかと考えた。

（１）林寿郎と多摩動物公園

上野動物園の機能を緩和させることを主たる目的として、日野市の広大な多摩の自然の丘陵をいかした「動物公園」として誕生したのが、多摩動物公園である。当時の上野動物園の園長である古賀忠道のもと、設立の実質的中心者として尽力したのが、初代園長の林寿郎である。

多摩動物公園は、当時としては最新の無柵放養式の展示方法を採用し、日本及びアジアの動物を中心にした展示で開園した。この動物園には林寿郎が発案した要素が多く含まれている。林寿郎が訪問したケニアのサバンナで見た動物の群れを動物園でも見てもらおうと、「ライオンバス」を発案した。放し飼いのライオンをサファリ形式に観覧するバスは、当時としては世界初の試みであった。また、当時は動物と昆虫は分野が異なるものという認識があったが、林寿郎は昆虫の専門家である矢島稔を招き「昆虫館」を開設した。

その後の多摩動物公園は、トキやキリンなど動物の保護・繁殖活動の他、国際交流の一環としてコアラ館が開設されるなど、動物を展示する娯楽・レジャー施設以外の多岐にわたる機能を兼ね備えた動物園となっている。

（２）日野への誘致と京王電鉄の協力

戦後間もなく新宿区の戸山に新動物園設立計画がおこったが、その計画は頓挫した。その後、七生村（現在は日野市）の誘致活動（七生村役場の焼失により誘致に至る経緯は不明）と地主の人たちの土地提供により、「仮称・七生動物園」の設置が決まり、昭和33年５月、現在の日野市程久保に「多摩動物公園」が誕生した。

誘致に際して、資金的支援を担ったのが現在の京王電鉄（当時は京王帝都電鉄、以下京王電鉄）である。京王電鉄は、日野市を走る沿線に「百草園」「高幡不動尊」「平山城址公園」を抱えていた。のちに誕生する「多摩テック」「よみうりランド（稲城市）」らと合わせ大観光・レジャー地域にしようとする計画があった。その目玉として動物園も組み込もうとした。京王電鉄は、土地買収に伴う費用の他、開園にともなう園内施設の設置費用を援助するとともに、動物園来場者の移動手段として、昭和36年４月、「動物公園線」を開通させた。

２．指導計画

（１）単元のねらい

本単元では、当時としては世界初の取組みがなされたことや初日の来場者数を児童に提示することで、当時の日野市を中心とする人たちの思いや願いに触れさせ、これまでとは違う視点から多摩動物公園を見直し、地域の発展に尽くした人々に対する誇りと愛情を感じさせたい。

（２）指導計画（10時間）

過程		●ねらい	○主な学習活動　・使用する教材や資料
つかむ2	①本時	●林寿郎や多摩動物公園に関心をもち、学習問題を設定する。	○都内及び周辺の主だった施設の来場者を参考に、多摩動物公園開園時の来場者を予想する。 ○今から58年前に、多摩動物公園の設置を進めた初代園長の林寿郎を紹介する。 ○学習問題を設定する。 林寿郎は、どのようにしてたくさん人が集まる多摩動物公園をつくったのだろう。
	②	●林寿郎をはじめとする多摩動物公園に関わった人々の取り組みについて、学習問題をもとに学習計画を立てる。	○当時の日野市や上野動物園の様子、開園当初の多摩動物公園の様子、林寿郎の取組みなどに目を向け、学習問題について調べる計画をたてる。 ○学習問題に対して、自分の考えを予想としてノートに書く。
調べる5	③	●当時の上野動物園の様子と、誘致先に決まった当時の日野市の様子を調べる。	○日野市と上野の位置関係を、地図上から読み取る。 ○当時の日野市の様子を調べる。 ○『七生村報』を読み、七生の人たちの思いや願いを知る。
	④	●林寿郎は、どのように多摩動物公園を構想し、その実現のためにどのような苦労をしたのかを知る。	○林寿郎が思い描いた動物園とはどのようなものだったのかを予想する。 ○林寿郎に関する資料を読み、どのようなことを行なったのかを調べる。 ・構想　・突貫工事　・他者への協力依頼 ・京王電鉄からの支援
	⑤	●開園当時の多摩動物公園の様子から、開園後の新たな課題があったことを理解する。	○動物園ができた当時の様子を調べる。 ・開園当時のエピソード ・毎年の来場者数 ○動物園に来た人たちの反応を、資料から読み取る。 ・動物園ができたことへの喜び ・不便さや物足りなさへの不満
	⑥⑦	●多摩動物公園の新たな課題に対して林寿郎はどのように取り組んだのかを調べる。	○開園後、来場者が減少して再び増加した理由について考える。 ○林寿郎は、来場者を増やすためにどのような工夫をしたのかを調べる。 ・ライオンバス（無柵放養式・初のサファリ形式） ・昆虫館（矢島稔氏の招へい、初の昆虫館） ・動物公園線（昭和36年開通）

まとめる1	⑧	●多摩動物公園を開設するまでの林寿郎の功績をまとめる。	○林寿郎の功績をまとめる。 ・計画　・動物の搬送 ・ライオンバス設置 ・昆虫園設置 ○学習問題に対する自分の考えを書く。
深める2	⑨ ⑩	●今日までに多摩動物公園が果たしてきた文化的・教育的役割を、パンフレットにまとめる。	○多摩動物公園が果たしてきた役割について調べる。 ・遠足で行く（教育的役割） ・動物公園の入場者の内訳 （東京都民とのつながり） ・トキの繁殖（日本の他地域とのつながり） ・オーストラリア館、キリンの繁殖・輸出 （世界とのつながり） ○これまで調べてわかったことをもとに、多摩動物公園のパンフレットを作る。

３．本時の指導案

（１）本時のねらい

○資料を読み、多摩動物公園やそれを作った林寿郎について興味・関心をもち、学習問題を考える。

（２）本時の展開

展開	○主な学習活動	◇資料　◆留意点　☆評価
つかむ	○他の娯楽施設とその来場者を参考に、開園した多摩動物公園に何人の人が来たのかを予想する。 ・以下の資料を参考に、開園時の多摩動物公園の来場者数を予想しよう。 ・東京ディズニーランドの初日来場者 約26000人 ・多摩動物公園の初日来場者は？（25万人） ○班ごとに写真を配り、これらの施設が誕生した時期を資料から読み取り、いつごろからそれらの施設が存在しているのかを調べる。 ・写真をもとに、それぞれいつできたのか読み取ろう。 ・TDL30周年（2013）　34年前 ・多摩動物公園50周年（1958）　58年前	◇写真２枚（TDL、多摩動物公園） ◇テープ図 ◆資料の数字に着目させる。 ◆何年前ということを視覚的に意識させる。

調べる	○多摩動物公園の初代園長である林寿郎と、開園当時と現在の多摩動物公園の写真を提示し、読み取れることを話し合う。 ・写真からどんなことが読み取れるだろう。 どんな人だったのだろう。 カバにのっている。 どこで撮った写真だろう。 昔も今も、多くの人が来場している。 こどもたちが多い。　親子連れがいる。	◇写真（林寿郎） ◇写真（開園当時の多摩動物公園、今の多摩動物公園）
	○ペア・グループ活動を通じて知りたいことや調べたいことを出し合い、考えを集約する。 ・林寿郎はどんな動物園にしたかったのだろう。 ・林寿郎は、どんな苦労をしたのだろう。 ・なぜ25万人もの人が訪れたのだろう。 ・なぜ日野に作ったのだろう。 ・他に協力してくれた人はいたのだろうか。 ・どんな思いで作ったのだろう。 ・どんな苦労があったのだろう。	◆多摩動物公園の成立やその背景、完成までの取組みなどを意識させ、動物の総数などこれまでの展開に関連のないものは入れないようにする。 ☆多摩動物公園の設立や、それに尽力した林寿郎のはたらきに関心をもち、意欲的に調べようとしている。 【関－①】
まとめる	○児童から出た疑問をもとに、学習問題を作成する 林寿郎は、どのようにしてたくさん人が集まる多摩動物公園をつくったのだろう。	☆多摩動物公園の設立に尽力した林寿郎のはたらきについて疑問をもち、学習問題を見いだしている。 【思－①】

４．成果と課題

（１）成果

・校区内にある施設を、１単元分の教材として授業を展開できた。
・児童の身近な施設を、これまでにはなかった視点で見ることができた。
・多摩動物公園に関する学習を通して、児童が地域に対する愛着を持てるようになった。

（２）課題

・林寿郎の功績を追究していったが、多摩動物公園を教材化していくうえでは、七生村や京王電鉄などといった組織的な協力もあり、テーマを絞り切れなかった。
・資料の大半が文字資料によるものが多く、児童への提示が難しかった。
・ゲストティーチャーを迎えるなどの活動ができればよかった。

５．主要参考文献

『多摩動物公園』（中川志郎／東京都公園緑地部監修・東京文庫６（財）東京都公園協会）
『多摩動物公園50年史』（東京都、東京都動物園協会　編　2008年）

（夢が丘小学校　永吉　智洋）

２．関係機関との連携

日野市郷土資料館

（１）郷土資料館における農具を使った学習支援

１．はじめに

郷土資料館では、学校教育や一般の方々への学習支援が、館としての存在意義にかかわる大きな役割の一つと考えている。これまでも、館が市民の方々から寄贈を受けて収集・保管してきた民俗資料の一部を使って、小学校三年生社会科「昔の暮らし」に合わせての農具体験や五年生総合的な学習の時間の一環として、児童たちが育てた稲の脱穀体験を行なってきた。また、児童館やそば打ち等の各種団体にも、農具を貸し出すことで学習支援を行ってきた。

しかし寄贈された農具類は、すぐに使えるわけではなく、貸し出すために安全に整備したものである。貸し出す際には、資料なので大切に扱ってもらうこと、足踏み脱穀機など安全面には十分に注意してもらうことなどを説明してから貸し出すことにしている。

また小学校の利用に際しては、少年時代に親の手伝いでこれら農機具を使ったボランティアの方々に助けてもらいながら実施している。

こうして行ってきた農機具による学習支援は、毎年たくさんの利用があり、とても好評である。

２．幼稚園での実施

このほど、第七幼稚園より「平山おかぼ」を教材として取り上げる中で、昔の農機具を使った脱穀を行ないたいとの要望があり、郷土資料館としては幼稚園（年長組）からの初の申し出であったが、活動の場を広げる好機と捉えチャレンジした。

小学校での農具体験授業なら、稲穂から籾を手で扱く→扱き箸→千歯扱き→足踏み脱穀機というように作業効率と道具の進歩を説明して体験させるところだが、幼稚園年長組での体験なので、安全性の確保が第一と考え、千歯扱きと足踏み脱穀機は体験からはずした。

また、幼稚園児が集中できる時間を考え、説明は極力少なくポイントだけにおさえ、年長組園児が理解できる言葉を選んで説明するようにした。

３．幼稚園児による昔の農機具体験

第七幼稚園では、以前よりの野菜作りを通して、作物の出来方や収穫について、実体験を通した理解がなされていた。そこで今回は収穫方法の違い―トマトやキュウリなどはすぐに収穫したものを食べることができるが、お米はそのままでは食べられないことを示し、まずは①刈りとった稲穂から籾をはずさなければならないこと→それでもまだ食べられない。次に②籾殻をはずさないと中のお米（玄米）が出てこない（籾摺（もみす）り）。最後に③籾殻と玄米を分ける（選別）ということを、各段階の体験をはさんで順に説明し、園児たちによる農機具体験を進めていった。

資料館職員が何度も話し合って脱穀道具に選んだのは「扱（こ）き箸」である。稲穂から籾を手で扱いてはずすかわりに、箸で稲穂を挟んで扱く道具である。江戸時代後期に千歯扱きが登場する以前になされていた方法で、園児たちが行なう脱穀方法としては安全だからである。園児たちの手に合わせて割箸の扱き箸を用意した。

各班一人以上の大人がつき、園児たちは収穫した稲穂を大事そうに割箸に挟んで扱いた。パラッパラッと気持ち良いぐらい籾が落ちるのに驚き、楽しんでいた。資料館職員も先生方も、すかさず「すごいね」「うまいね」と声かけをし、道具をうまく使うこと、道具を使うことで作業がよ

くできることの喜びを園児たちと分かち合った。

次の籾摺りでは、小学生ならすり鉢と軟球でやるところを、幼稚園児の手の大きさに合わせたミニすり鉢とゴルフボール（！）が用意されていて、園児たちの手にぴったり合った道具で籾摺りに挑戦した。先生による事前学習がきっちりとなされていたため、籾殻がとれると「玄米」が出てくることは先刻承知しており、園児たちの口から「玄米」という言葉が出たのにはびっくりした。しかし何より驚いたのは、籾摺りで籾殻がとれた瞬間、園児たちの口から思わず出た言葉「お米が生まれた～！」だった。

お米は収穫してもすぐ食べられない→脱穀・籾摺り・選別を経てはじめてお米の形になる、お米を食べられるようにするには大変… というストーリーを考えていた館の構想は見事ひっくり返された。

園児たちの口から出た言葉は、自分たちが育てて収穫し、やっとお米に出会えた時の喜びを表した言葉、園児たちにとっての待ちに待ってやっと会えた赤ちゃん（弟や妹）に出会えた時の喜びと等しい、すごく嬉しいことの表現だったのである。

これは理屈とか頭で考えたことではなく、体験を通してはじめて出て来る「身の丈の言葉」といえよう。

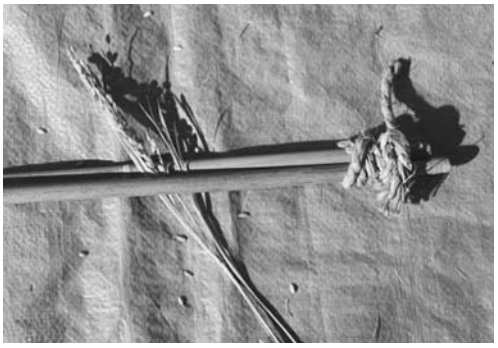
同じく、後日、日野第六小学校五年生で行った、千歯扱き・足踏み脱穀機・箕と篩（ふるい）・唐箕を使った脱穀体験でも、児童たちの感想は「大変」ではなく「おもしろかった」なのである。

４．終わりに

今回の第七幼稚園の森先生による実践が、幼稚園でも細かい指導と理解の細かい道筋さえつけていれば、林丈太郎の平山おかぼという郷土教育におけるキーワードと、昔の農機具を使った学習が安全かつ十分に行えることを示したといえ、また今回の実践が、幼稚園における昔の農機具を使った学習の形の根本授業になるのではないかと思った次第である。

理屈に基づいたマニュアル方式（わかりやすい）から全自動化が進み（見えない化）、インターネットで見ることで、やったようなわかったような気持ちになる昨今、昔の道具を使って実際にやってみる体験の意義は大きいだろう。単なる知識の習得に終わらず、「体験に根差した学習の大きさ」を改めて知らされた今回の学習支援であった。

この経験をもとに、郷土資料館では農具体験事業にさらなるブラッシュ・アップを加えていき、この先、幼稚園でも保育園でも、小学校、中学校でも、お呼びさえかかればどんどん出向いていきたいと思う。子どもたち、市民、必要としている人たちへの学習支援はおしまない、というのが郷土資料館の基本理念である。



（郷土資料館　秦　哲子）

日野市立図書館

（２）ブックトークで郷土資料を紹介する　～日野用水に関する資料を中心に～

１．はじめに

日野市は平成29年（2017年）に用水の開削450周年を迎えます。

用水は日野市を流れる多摩川・浅川から取水され、市内を網の目状に広がり日野市の農業を支えてきました。そして人々の生活に密接に関わっていました。日野用水に関する資料は、市政図書室をはじめ市内図書館に多数所蔵しています。また多摩川、浅川に関する資料も所蔵しています。市政図書室が所蔵する地域資料を児童に役立てて貰い、市政図書室のＰＲになる図書館の取組を考えました。

２．市政図書室の特徴

市政図書室は地域資料の収集・貸出・保存に重点を置いています。地域資料とは①行政・民間を問わず日野市内で発行された資料、②日野市在住・在勤者および出身者が作成した資料、③日野市に関する記述のある資料、④日野市に関連のある資料のことです。市内にある７図書館のうち、地域資料を最も所蔵しているのが市政図書室です。中央・他分館と異なり地域資料の所蔵に限るため児童向け資料は所蔵がなく、したがって子どもの利用率も低いことが特徴です。しかし夏休みの時期になると、宿題や自由研究で地域資料を調べに市政図書室に子どもが多少来館します。中央・他分館でも同様に、夏休みは子どもから宿題や自由研究に関する質問を多く受けます。そこで、市政図書室の存在を児童により知ってもらい調べ学習に役立ててもらうために、市政図書室の地域資料及び機能を紹介するブックトークを考えました。

３．ブックトークとは

特定のテーマを軸に数冊の本を順序立てて紹介し、子どもに本に対する興味を持たせ読書のきっかけづくりをする目的で行う活動のことです。

＜参考資料＞「ブックトーク（booktalk)」… 図書館員がこどもや成人の集団を対象にして、何冊かの本の内容を紹介すること。学校のクラスや読書会などの集団に対して行われる。」（図書館用語集四訂版　日本図書館協会用語委員会／編集　日本図書館協会　2013.10）ｐ.270

４．ブックトークで日野用水の資料を紹介する

日野市の用水は、次の４つの系統にわかれています。①多摩川堰からの取水、②浅川左岸堰からの取水、③浅川右岸堰からの取水、④その他地下水や地下湧水からの取水です。各取水堰から生まれた主な用水路幹線には14ケ名前が付いています。用水の取水堰である多摩川・浅川に10本の橋が架かっているように、日野用水にも橋が架かっていた記録が残されています。江戸時代に遡ると、日野用水に架かる板橋が３つあったという記録が残っています。また慶応時代は名前のついた橋についての工事記録が残されており、明治時代では日野本郷の用水に架かる橋13本の長さ・幅等の記録も残されています。その13本の橋のうち、金子橋の石碑が甲州街道に設置されています。また上堰堀に架けられた東光寺大橋の碑が市指定史跡として残されており、東光寺大橋の変遷が記されています。その他、用水網が充実し日野市民の暮らしに密接に関わっていたころ

の証言が記述されている資料もあり、当時の市民が用水を生活に生かしていたことがわかります。

＜参考資料＞

・『日野市史　民俗編』（日野市史編さん委員会　日野　1983）p.131～134
・『用水を総合的な学習に生かす　2003年　日野の用水を例として』（とうきゅう環境浄化財団（一般）研究助成　小坂克信／著　とうきゅう環境浄化財団　2004.3）p.85～88
・『日野市水路・河川図』（日野市建設部水路清流課／編　日野市　1992.3）
・『川のいわれ　日野市　1989.3』
・『日野市の文化財』（日野市指定文化財調査団／編集　日野市教育委員会　1994）
・『日野駅周辺史跡・資料館見どころマップ』（日野の見どころ発信事業実行委員会　2012.10）

５．実践

日野市立図書館は毎年市内小学校３年生の「図書の時間」を訪問し、図書館ガイダンスを行っています。１時限内のうち、20分程度でブックトークを行います。

担当：図書館の児童奉仕担当職員　２名

目的：児童が本に出あい読書のきっかけとなること、市内図書室の利用促進。

内容：クイズを取り入れた図書館の利用案内、本の読み聞かせやストーリーテリング、ブックトーク。

ブックトーク　テーマ「橋」本のリスト

導入・読み聞かせ	『はしをつくる』（ライアン・アン・ハンター／文　ほるぷ出版　2013.3）
日野市に流れる川	『たまがわ　日本の川」（村松　昭／さく　偕成社　2008.2）
浅川と多摩川を利用して日野の人が作ったもの	『日野の用水－地域教材－』用水の会　1995.3 『川のいわれ』（日野市　1989.3） 『用水で遊ぼう！　日野の用水攻略法』（日野市建設部水路清流課／編　日野市　1998.3） 『日野市水路・河川図』（日野市建設部水路清流課／編　日野市　1992.03）
昔の用水に架かっていた橋	『用水を総合的な学習に生かす　2003年　日野の用水を例として』（とうきゅう環境浄化財団（一般）研究助成　小坂克信／著　とうきゅう環境浄化財団　2004.3）
用水のある暮らし	『多摩川　1989年　多摩川用水路物語・その１』（とうきゅう環境浄化財団／編　とうきゅう環境浄化財団　1989.3）
その他	『はしをわたらずはしわたれ　たくさんのふしぎ傑作集』（小野　かおる／さく　福音館書店　1998.4） 『おはなしのろうそく　１「かしこいモリー」』（東京子ども図書館／編　東京子ども図書館）

テーマ「橋」以外にも地域資料を取り込んだブックトークを展開し、子どもと本との出あいを作り、さらに市政図書室のＰＲとなる活動を目指します。

（市政図書室　髙橋　薫子）

新選組のふるさと歴史館

（３）新選組と日野

現在、日野では「新選組のふるさとひの」というPRを行っているが、「新選組は京都で活動して、日野とは何の関係も無いのに、土方歳三が生まれたというだけで新選組のふるさとなんて言ってるんだろう」という程度の理解がかなり多いのが現状である。

しかし、日野と江戸幕府との関係は他のどの地域とも違う特別なものがあって新選組が生まれる土壌を育んだのであり、京都を中心に活動したとの関係も、他のどの地域とも違う特別なものだった。

単に突然変異的に土方歳三が生まれ、それに便乗して新選組のふるさとを名乗っているわけではなく、日野の地理的政治的な特殊性が新選組を生む土壌となり、幕末の日野の特異な行動につながったといえる。

新選組は郷土史と切っても切れない関係にあることを理解していただきたいと考えている。

１．多摩の中の日野

現在、多摩地区は500万人近い人口があり、東京の近郊として栄えているが、江戸時代、現在の東京23区西部及び多摩にあたる地域の大部分は、養分がほとんど含まれない火山灰の酸性土壌である関東ローム層に厚く覆われて非常に土地が痩せ、関東ローム層の下にある、水はけの良すぎる礫層は「武蔵野の逃げ水」の異名があり、用水路を引くことも難しかった。

また、関東ローム層・礫層の崩れやすさと厚さから井戸も「まいまいず井戸」のような大規模な工事になることから、水を得ることが困難であり、土地の広さの割に収穫も少なく、大都市江戸の至近にもかかわらず人口も希薄だった。

平坦な土地にもかかわらず人口が希薄であったため、用地買収・立退きなどが容易で、明治以後、中央線が一直線に敷設されたほか、立川や調布には平坦で広大な土地を利用して軍の基地が作られた。

そうした、大都市近郊でありながら裕福とは言い難かった多摩唯一の例外が日野で、多摩川と浅川という二つの大河川に挟まれていることにより、両河川が武蔵野台地を削った結果、肥沃な黒土層が広範囲で露出しており、広大な田園地帯が存在していた。

江戸時代、日野の単位面積あたりの収穫高は多摩平均の２倍を誇り、非常に豊かな穀倉地帯で、周辺地域と比べても生活に余裕があったようである。

２．江戸幕府と日野

現在の多摩のほぼ全域は、江戸幕府の直轄地・旗本知行地であり、大名領よりも安めに設定された年貢と、将軍のお膝元に近いという誇りから、徳川恩顧の気風があった。中でも現在の八王子・町田・日野・多摩・稲城にあたる南多摩郡は名代官として知られる江川太郎左衛門が治めていたこともあって、その気風が強かった。

江戸後期の治安悪化の中で剣術を習うことが流行したり、特に八王子とその隣接地域には半士半農の八王子千人同心が存在したりしたこともあって、武士と農民との垣根が低く、特に有力農民の間では武士に対する憧れが非常に強かったようである。

この徳川恩顧の気風の強さと、多摩地域随一の裕福さから、日野は特別に幕府に対する忠誠心

が強かったようで、元治元年（1864年）頃、幕府の命令で農兵隊（治安の悪化と欧米列強の脅威に対抗するための武装農民部隊）が作られることになった時も、周辺の村々が資金を出し渋る中、積極的に資金を集めて真っ先に農兵隊（日野宿農兵隊）の編成を成し遂げている。

３．新選組と日野

新選組の元になった浪士組が作られたのは文久３年（1863年）のことだが、この時、道場主の近藤に従って京都に向かったのは、内弟子の沖田総司、居候の山南敬助、永倉新八、原田左之助、藤堂平助の他の土方歳三、井上源三郎、沖田林太郎、馬場兵助、中村太吉郎、佐藤房次郎は全員日野の佐藤道場の門人である。後に新選組が京都で有名になると、八王子や府中の門人の中からも新選組に参加する者が相次いだが、まだ浪士組が京都で何をしてどうなるのかが全く分からない段階で近藤とともに京都に行ったのが全員日野の人であることは特筆に値するだろう。

その後も京都の新選組と日野の人々は交流を続けたが、やがて戊辰戦争が起き、京都で敗れた新選組は、西から攻めてくる敵を甲府で守るように命じられ、甲州道中（甲州街道）を西に向かった。甲州道中沿いには近藤勇の親族や門人が大勢いたので、新選組の行列は道中歓迎されたといわれる（ただし、大宴会を開いて行軍が遅れたというのは司馬遼太郎の創作）が、中でも日野では、天然理心流門人と日野宿農兵隊の面々が新選組に加勢し、勝沼で新政府軍と交戦し、敗れた。この時、新選組とともに実際に新政府軍と戦ったのは多摩の中でも日野の人々だけであり、日野の人々は、新選組の前身、浪士組ができる前から最後まで新選組を応援し、特別な関係にあった。

４．明治以後の日野

江戸幕府を倒した明治新政府が成立した。特に、親幕府の気風が強く、名主佐藤彦五郎以下、実際に新政府軍と交戦経験がある人も少なくない日野は、新政府の探索・弾圧を受け、彦五郎の息子が一時逮捕されるなど混乱したが、やがて新政府は親幕府勢力を民衆に至るまで弾圧するのは不可能であるとして懐柔の方針に転じ、名主の佐藤彦五郎も特に罪に問われることもなく、引き続き日野の名主であり続けた。

また、八坂神社の扁額を征東大総督だった有栖川宮熾仁親王に依頼するなど、表向き新政府に服する姿勢を示したが、実際には親幕府・親新選組の姿勢を失うことはなく、元会津藩主で新選組の主でもあった松平容保や、新選組と親交が深かった元幕府医師で陸軍軍医になっていた松本順（良順）らの協力も得て高幡不動尊境内に近藤勇・土方歳三を顕彰する「殉節両雄之碑」を建てた。

また、自由民権運動が盛んになると、日野からも自由党に入党して反政府の活動を起こす者も少なくなかった。運動は政府の弾圧や内部分裂などでやがて表面上下火になるが、日野では激化事件に身を投じる者もおり、大阪事件の際には、日野出身の元自由党員も逮捕されている。

このように、「新選組のふるさと」とは土方歳三人気への便乗なだけではなく、江戸時代後期から明治時代にかけての郷土史の紛れもない一頁であることを新選組のふるさと歴史館の活用を通してご理解いただきたいと考えている。

（新選組のふるさと歴史館　松下　尚）

３．郷土教育のための普及・啓発

（１）地域を知る指導者の育成

土方歳三の足跡を訪ねて～高幡・新井、石田・万願寺地区の教材化～

フィールドワーク

地域には、これまでの歴史を感じさせる遺物や暮らしと結びつく自然が多く残っている。多摩川と浅川に挟まれた石田・落川地区は水との戦いの中で肥沃な土地が培われ、土方歳三や新選組が生まれ育った環境となった。これらの素材は身近なところにあるため、改めて意識することは少ないが、見つめる中でその意味を深く感じ取ることができた。

土方歳三がこの地に生まれ活躍できたのは、この地域ならではの自然、歴史的な背景があったからに他ならない。

１．土方歳三の像

この像は平成７年建立

武州多摩郡日野宿石田村に生まれた歳三の菩提寺は、ここ高幡不動尊金剛寺である。父、土方義諄（たけあつ）、母と幼くして死別したため、次兄喜六夫妻の手で養育された。丁稚奉公を経て、家伝の石田散薬の行商を行う傍ら、義兄佐藤彦五郎宅の道場で天然理心流を学び、後に試衛館に寄食。文久３（1863）年、近藤勇らと上洛、新選組副長として活躍。慶応４（1868）年負傷した近藤に代わり、新選組を指揮して鳥羽・伏見の地で戦う。帰東後、甲陽鎮撫隊を結成。

近藤の死刑後も、奥羽各地で転戦。

幕府軍の箱館政府樹立後は陸軍奉行並となる。

明治２（1869）年５月11日、箱館攻防戦の最中流れ弾に倒れる。

（天保６（1835）～明治２（1869）年）

２．殉節両雄之碑

明治政府は戊辰戦争に関係した東軍の戦死者の墓碑の建立や供養を禁止した。この禁が解けた明治９（1876）年に元隊士・永倉新八が中心になって板橋刑場の側に近藤・土方ら新選組隊士の供養墓が建立された。同じ年日野でも高幡山前住職賢雅和尚や日野宿佐藤彦五郎を中心に「近藤・土方の忠節を顕彰する碑」を高幡山境内に建てることが計画された。

しかし、その内容が当時賊軍扱いされていた両士の顕彰碑だったため、碑が完成しても建立の許可が得られず、実際に建立されたのは明治21（1888）年であった。最後の将軍徳川慶喜は「唯死あるのみ、すなわち、※寛典に処するとも、吾何の面目あって、昌宜（まさよし）と地上にまみえんや！」との文言ある。碑文を読み、無言のまま涙を落としたという。

※　情けある取り扱い。

３．向島用水親水路の水車

日野市には多摩川、浅川から取り入れた用水路が網の目のように張り巡らされている。そして、その水は田を潤し続けてきた。向島用水もその一つである。永々として使い続けられてきた用水路であるが、周辺が宅地化するに従って田も減り、本来の役目を失い排水路化してしまった。

平成７（1995）年水車が復活され、臼も備えられて、水車を使って製粉できるようになっている。

「日野水車活用プロジェクト」が2011年に立ち上がり水車を使っての精米ができるようになっている。

※　今年度は日野の用水ができて450周年に当たる。

４．新井橋

歳三の夏の行事の一つは、「石田散薬」作りだった13歳から毎年土用の日の夜明け、空がまだ薄明るいうちから鎌を手にした村人が浅川の新井橋下流の左岸に三々五々集まって、歳三の指示のもと総勢40名を超えるメンバーでミゾソバの収穫作業をした。この時の経験が歳三が武士になった時、多くの軍勢を自らの采配で動かすことに役立った。

５．石田寺

真言宗高幡山金剛寺の末寺で石田寺（せきでんじ）と読む。新選組副長の土方歳三が生まれた石田村「いしだむら」にある。多摩川と浅川の合流地点にあるこの寺にも川の流れが関わっている。

寺伝によると、南北朝時代の康安元（1361）年、吉祥坊慶興という僧が建立した。永和３（1377）年頃から衰えて一時廃寺になったが、数百年後、天文13（1544）年７月９日、多摩川に洪水が起こり一体の観音像が石田に流れ着いた。これを廃寺になった堂跡に観音堂を立てて安置したのをきっかけに文禄２（1593）年、慶心という僧が寺を建立し石田寺と号した。

石田寺で入ってまず目を引かれるのは、日野市天然記念物のカヤの木で目通りの太さ4.5m、高さ26m、樹齢400年以上、600年とも言われている。カヤの木に隣り合って建てられているのが、北向き観音と呼ばれ、勝負運に強く病魔退散子育てで有名である。

カヤの木を墓所に進むと右手に「土方歳三義豊之碑」が建てられており、これは、早く親をなくした親代わりであり喜六曾孫にあたる土方　康氏が昭和43（1998）年、明治100年を記念して建立したものである。歳三が亡くなった明治２（1869）年、その時は蝦夷地だった場所もその年には、名称が北海道となり開拓使が置かれた。戒名は「歳進院殿誠山義豊大居士」土方歳三の墓所はさらに進んだ所にある。位牌は高幡山金剛寺の大日堂に収められている。

６．とうかん森

「とうかん森」とは「稲荷森」を音読した「とうかん森」から言われるようになったと言われている。この稲荷は言い伝えによれば、土方一族により江戸中期に稲荷大明神が祀られ、以後代々守護神にされている。歳三の家はこの森から北東方向にあり、弘化３（1846）年の多摩川の洪水にあい、現土方歳三資料館のある場所へ移築されたという。この森は日野市の文化財に指定されているが、「森」というほどの広がりはない。

祠を中心にムクノキとカヤの巨木がそびえ立ち、一抱えもある藤が絡みついている。今は、周りの宅地開発により昔の面影はない。

７．水再生センター

今の土方歳三資料館のところに引っ越すまでの歳三の生家は、浅川水再センターの辺りだったという。小高くなった再生センターのグランドに上がると周りの様子がよくわかり、石田村の中心にあった「とうかん森」や「石田寺」の様子がよくわかる。

８．土方歳三資料館

平成17（2005）年春、リニューアルして開館。歳三生家に伝わる数々の資料と子孫との語らい、土方歳三の生家が立替になったのを機に、平成２（1990）年から自宅の一室を開放して作られている資料館。土方歳三５代目、６代目が運営する資料館。生家に伝わる遺品類等70点以上を展示。主な展示品は愛刀・和泉守兼定（市指定有形文化財）、池田屋事件使用の鎖帷子、８月18日の政変で使用の鉢金、句集、書簡。庭には歳三が自ら手植えした矢竹が繁る。

土方歳三は、局長近藤　勇とともに新選組を率いた副長である。新選組には厳しい局中法度があり違反した多くの隊士に切腹を命じたため「鬼の副長」と恐れられているが、組織の運営・統制には非常に高い能力を発揮したので、その功績は大きい。一方で、長身のモテ男だったという。

９．下田八幡大菩薩

別当寺、安養寺所蔵の経本によると、由井別当宗弘の孫・田村駄二郎知実が暦応２（1339）年祀られている。当地に住み男山八幡宮を勧進して鎮守社として祀られる。

10．安養寺

田村山安養寺は、高幡不動の北東、多摩川の近くに位置している。将棋好きの言葉で「王手は日野の万願寺」というが、その万願寺の南東に位置している。今は万願寺という寺はなく、地名として残っているだけだ。「田村」というのはかつての日野市下田のことであるが、その名はこのあたりから起こり、居館を構えた田村駄太郎知実、その子三郎弘綱（平安時代後期～鎌倉時代初期）等の末裔に安養寺を開基したといわれる田村安栖がいる。

田村安栖は小田原城の御殿医で、小田原北条の最期場面に自邸を提供した。氏政、氏照兄弟の切腹場に当てられた天正18（1590）年７月11日のことは、「北条五代記」（小田原記）に詳しく書かれている。今でも小田原市の中央に「安栖小路」の名が残っている。

安養寺の本堂（1690年頃・元禄時代初期）は、田村氏の書院の一部を使い建立されていたと言える。また、本堂北に隣接する茅葺屋根の庫裏は本堂よりも古く、中興開山法印慶深の位牌に慶

長11（1606）年・11月22日没と刻していることから、その前後に建立されたものと思われる。本堂に安置されている本尊阿弥陀如来坐像（都重宝）は、安養寺の前身である万願寺の本尊であった。平安時代後期の手法で綺麗な手法で見事である。また、藤原時代の毘沙門天像、鎌倉時代の大日如来立像等、多数の小仏を安置している。

11. ふれあい橋

ふれあい橋は平成３（1991）年に完成した。「ふれあい橋」は愛称で、正式名称は「万願寺歩道橋」という。この橋ができるまでは、浅川左岸の住人は高幡不動に出るにつけても上流の高幡橋か、下流の新井橋まで迂回しなければならず、浅川の渇水期にはここにある向水取りを昔の渡し宜しく何とか渡れたものの孤島状態であった。

12. 向島親水路

高幡不動駅の北方、日野市新井の地区に小川に沿って遊歩道が整備されている。「向島用水親水路」という名が示しているように、かつて農業用水として使われていた水路を親水公園として整備したものである。

毎年土用の丑の日に、１メートル前後になったミゾソバを刈取り、天日で十分の一になるまで干して乾燥させ、葉だけを選び取る。これを土方の庭に据え置いた釜で黒焼きにする。それに酒を散布し、さらに乾燥したものを薬研で粉末にする。

左は川に自生するミゾソバ、下は黒焼きにするところ。（郷土資料館）

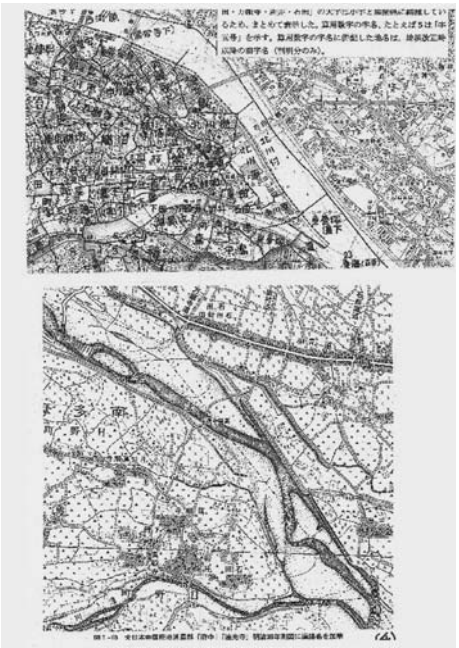
完全に水分を飛ばし粉末し、最後に酒を吹きかける。

午後の研修会

1．フィールドワークのまとめ
　中島　和夫　所員　67～71ページ。
2．郷土学習の進め方
　鈴木　信之　教諭
　黒川清流公園を例に日野市の豊かな水環境を取り上げた学習を紹介する。
　第11集36～41ページ。
3．「ひのっ子新選組探検隊」
　松下　尚学芸員　65～66ページ。
4．教材化演習「地図を活用した学習」
　小杉　博司　顧問　72ページ

過去の地形図からフィードワークを振り返る。特に、歳三が幼小の時代の風景を振り返る。地形図や絵図から日野の災害の歴史（洪水）を振り返る。

歳三の歩いた道を地図で見て考えよう。洪水による道の移転、石田散薬販売の道、手習いの道（谷保天満宮から谷保本村）、日野宿佐藤家への道、大國魂神社、連光寺名主富澤家への道、小野路名主小島家、甲陽鎮撫隊の道等の学習活動を考えた。



左の地図は多摩川浅川に囲まれた石田地区で、この中央近くにあった歳三の家を考えると、この地形図から歳三がどのように歩いたかがわかってくる。

日野では多摩川、浅川の氾濫による洪水が頻繁にあり、そのことで飛び地が多く、現在でもこの地域の区画整理が続けられている。

地名や土地利用を読み取っていくことで、河川がこの地域に与えた影響が明らかになってくる。

災害の跡を考えた後、土方歳三が実際に歩いただろう場所を地形図から読み取る学習をした。当時の出来事と共に考えることで興味深い発見をすることができた。

この石田、落川の辺りは多摩川、浅川の流路が洪水により変わっており、現在の地名でも同じ字名が数か所あったり、源平島公園と川の中州を思わせる地名がそのまま残っていたりする。

Ⅲ　研究のまとめ　～成果と課題～

研究主題「郷土意識を育む指導の在り方～郷土の歴史・自然・文化・産業・人の授業づくりを通して～」のもと、１年間研究と実践に努めてきた。大きな成果は、郷土資料の教材化を通して指導者である教師が、郷土「日野」の特色やよさを知り、この教材で授業がしたい、子供たちに郷土の特色やよさを伝えたいと意識を高めたことである。教師の意識の高まりと授業実践意欲が、郷土に対する誇りと愛着をもった「ひのっ子」の育成につながると考える。

今年度の成果は、大きく二点あると考える。その一点は、何といっても郷土教育推進研究委員が連携しての授業づくりと実践である。特に、日野の特色ある施策の一つである図書館制度をつくった有山　崧氏の学習を通して図書館の皆様との連携を深めたこと、平山陸稲づくりの導入として米の脱穀・もみすりを郷土資料館と連携して行った取り組みは顕著な成果である。

もう一点は、昨年編集された「ひのっ子新選組探検隊」（副読本）の活用を考え、本市で生まれ育った土方歳三の足跡をたどることであった。土方　愛氏のご配慮で土方歳三資料館の見学をさせていただいたことは、今年度の研修をより印象づけるものとなった。

さて、こうした中での課題は、これまで蓄積してきた郷土教育の指導法と共に日野市全体の学習教材を如何に若手教員に伝えていくかという点である。今後、郷土教材を編集しまとめていくことも大切なことであると考える。

１．成果

（１）郷土教材の開発と指導者の育成

①　新しい指導資料を発掘し、継続した教材の作成に努めることができた。
　・高幡、新井・石田、万願寺地区の教材化を図った。

②　脱穀・もみすり体験を利用して、幼児の活動意欲を高めることができた。

③　元市長　有山　崧氏の施策であった日野の図書館制度を学習に取り上げ、児童の学習意欲を高めることができた。

④　土方資料館を訪ねることで土方　愛氏による土方歳三の説明を受け、土方歳三をより身近に感じることができた。

（２）郷土資料館・図書館等関係機関と連携した学習指導法の研究

①　問題把握・追究・まとめの学習過程で、効果的に郷土資料を活用し、問題解決型の授業を推進することができた。

②　新選組のふるさと歴史館や郷土資料館の展示内容を適宜紹介してもらい、相互に連携した教育活動を推進することが可能となった。
　・社会科見学での十分な打ち合わせと体験学習の導入を図った。
　・郷土資料館による実物の郷土教材を活用した出前授業の充実を図った。
　・図書館保有資料（図書・広報・写真）を活用した授業を実践することができた。

③　関係機関・地域人材と連携した授業、各委員の協力によりフィールドワークを実施することができた。

④　幼稚園による関係機関・地域人材と連携した園外保育の工夫ができた。

（３）郷土教材の電子データ化

①　「郷土日野」指導事例集と指導事例集の写真図版を日野市立教育センターのホームページに掲載することができた。

②　郷土教育に電子データ化された教材やICT機器を活用した授業実践を行うことができた。

③　過去のプレゼンテーションデータを全員が共有し、活用することができた。

（４）その他

①　本市小学校校長会の理解と協力のもと郷土教育推進研究委員にとどまらず、市内全教員に対し授業を公開することができた。

②　郷土教育推進研究委員会委員が、１年間の継続研究を通して日野のよさ・特色に気付き、郷土の教材化・授業実践の楽しさを体験した。また、子供・保護者・地域と共に授業を創造し、授業力を向上させた。

③　本委員会に学校現場から、フィールドワーク・授業・若手教員指導の要請が増え、できる限り学校現場の期待に応えている。

２．課題

（１）研究推進・授業実践の成果をさらに継承・発展・定着させることが重要である。これまで本委員会で培ってきた郷土教育の内容や指導法を若手教員に定着させていくことが大切である。

（２）郷土教育推進リーダーの養成と若手教員の育成が必修である。教育現場では、郷土教育日野への理解が深まり実践意欲が高まりつつあるが、教員・学校間の郷土教育への関心度の差が大きい。「日野をふるさとと思い、日野に誇りと愛着をもった教員」「ひのっ子教育を背負って立つ気概をもった教員」の育成が必要である。

（３）日野市教育委員会と連携し、日野の特色やよさが理解できるフィールドワーク・教材化・授業づくりを工夫した研修会を充実させることが必要である。

（４）博物館・図書館・公民館等生涯学習関係との連携・協力関係を深め、学校との人材の交流・地域と連携した教育活動をさらに充実させることが必要である。

（５）本委員会所属委員間で相互に授業を見合い、児童・生徒の実態・郷土教材の有効性を検証し、よりよい教材化と授業実践を図りたい。

（中島　和夫、廣木　智之）

郷土教育推進研究協力者（敬称略）

・土　方　　愛　　土方歳三資料館館長　講師
・有　山　　至　　有山　崧　元市長次男　講師
・石　嶋　日出男　　日野図書館分館長　講師
・小　林　和　男　　平山おかぼ栽培者　講師
・白　川　未　来　　郷土資料館　講師
・渡　辺　　淳　　郷土資料館　講師
・長谷川　　寛　　日野の水車活用プロジェクト　紙芝居作成
・児　山　由美子　　日野の水車活用プロジェクト　説明
・竹　山　弘　志　　潤徳小学校長　施設利用
・五十嵐　俊　子　　平山小学校長　平山おかぼ栽培
・千　葉　　正　　教育センター　ＩＣＴ活用　ホームページ情報発信

郷土教育推進研究協力団体

・潤徳小学校
・土方歳三資料館

平成28年度　郷土教育推進研究委員会委員

No.	役　職	所　　属	職	氏　　名	学年
1	委　員　長	仲田小学校	校　　長	池　田　泰　章	
2	副委員長	日野第一小学校	副　校　長	秋　田　克　己	
3	委　　員	元渋谷区立常盤松小学校	元校長・学識経験者	會　田　　満	
4	委　　員	元日野市立百草台小学校	元校長・学識経験者	吉　野　美智子	
5	委　　員	元日野市立日野第一小学校	元校長・学識経験者	小　杉　博　司	
6	委　　員	第五幼稚園	教　　諭	高　頭　志　枝	幼
7	委　　員	第七幼稚園	教　　諭	森　　陽　子	幼
8	委　　員	日野第四小学校	教　　諭	堀　　裕　行	５年
9	委　　員	日野第五小学校	教　　諭	海　東　芙　美	１年
10	委　　員	日野第六小学校	教　　諭	島　谷　直　樹	４年
11	委　　員	潤徳小学校	教　　諭	高　見　彩　可	３年
12	委　　員	平山小学校	主　任　教　諭	堀　内　正　人	３年
13	委　　員	滝合小学校	教　　諭	関　根　夕　紀	６年
14	委　　員	日野第七小学校	教　　諭	栄　森　めぐみ	４年
15	委　　員	東光寺小学校	教　　諭	三　木　浩　行	４年
16	委　　員	夢が丘小学校	教　　諭	永　吉　智　洋	４年
17	委　　員	新選組のふるさと歴史館	学　芸　員	松　下　　尚	
18	委　　員	郷土資料館	学　芸　員	秦　　哲　子	
19	委　　員	市政図書室	司　　書	高　橋　薫　子	
20	事　務　局	教育センター	所　　員	中　島　和　夫	
21	事　務　局	教育センター	所　　員	廣　木　智　之	

郷土教育推進研究報告書

平成28年度「郷土日野」指導事例　第12集

発行日　　平成29年３月31日
発　行　　日野市立教育センター
　　郷土教育推進研究委員会
　　〒191-0042　日野市程久保550
　　TEL 042-592-0505
　　FAX 042-592-1148
印　刷　　システム印刷株式会社

再生紙を使用しています